琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　沖縄関係　援助金に関する覚書（昭和41年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43552

[illegible]

(寄書 [illegible])

北米課長

日本政府の対沖縄援助について。

昭41.1.12

北米課（志田）

1. 本12日、特連局援助業務課議見事務官より、各会計年度の日本政府の対沖縄援助について、日本政府と琉球政府との間で署名する「昭和○○会計年度における ~~日本国政府~~ 琉球諸島に対する援助 ~~[illegible]~~ 金額に関する覚書」に記述する「覚書の目的」は、従来「……日本国政府総理府は、……援助金を……琉球諸島米国民政府を通じ、琉球諸島政府に供与する」と記述されているところ、今後総理府特連局としては

覚書の目的を「日米協議委員会で供与することに決定された援助金の使用実施を取極める」ものと言った趣旨に変更したいと考えているところ、次の2点に関する外務省の見解を承知したい旨連絡試した。

1. 前記覚書に特連局長が署名する権限は日米協議委員会設置に関する日米間の交換公文（1964年4月25日付）に基いていると解し得るか。

2. 前記覚書の目的を援助金の使用方法の実施を取り極めるものと記述して差支へないか。

2. これに対し、吉田より上司とも相談の上、追って回答する旨述べておいた。

なお、覚書の目的変更の理由は、(1) 毎年同じ覚書を締結する繁を避け、基本的な覚書を締結し、援助金の支付は、特連

局長より援助計画の項目と金額を琉球政府に通報することによって行なわんと考えていること、(2)覚書締結に手間取ることによって、琉球政府の事業計画の実施が遅れることを避けようと考えたことから、「交換公文に基いて」覚書を作成することが可能どうか検討した際（援助業務課内部で）、外務省の見解を尋ねた方がよいとの意見が出たので、今回の問い合せになった由である。

であり　基本的

GA-6　外務省

総特第155号

昭和41年5月16日

外務省北米局長　殿

総理府特別地域連絡局長

昭和41会計年度における日本国政府の琉球諸島に対する援助計画の項目及び金額に関する覚書（案）について

「琉球諸島に対する援助の供与についての日本国と合衆国との間の協力取極の実施のための手続」第6項に基づく了解覚書を締結したいので、別添の覚書案及び同案の説明書を米側に送付されたく依頼します。

なお、この覚書案の米側及び琉球政府における検討結果を可及的すみやかに承知したいので、何分のご配慮をお願いします。

総　理　府

外務省北米課 森公事務官

昭和41会計年度における日本国政府の琉球諸島に対する援助計画の項目及び金額に関する覚書

昭和41会計年度（昭和41年4月から昭和42年3月まで）における琉球諸島に対する援助のため、日本国政府援助計画としてこの覚書の付表に掲げるとおり、日本国政府支出予算が成立したので、日本国政府はこの目的に充てられた資金を日本国の関係法令に従つて支出する意向であり、琉球政府はこの援助計画に同意する意思を有することについて、日本国政府総理府と琉球諸島米国民政府を通じての琉球政府との間において了解が成立した。

日本国政府総理府	琉球政府
特別地域連絡局長	総務局長

昭和　年　月　日　　年　月　日

高等弁務官に代つて承認する。

~~行政官~~
総務部長

年　月　日

付表

昭和41会計年度における琉球諸島に対する日本国政府の援助計画

1. 援助金による援助計画

項目番号	項目	金額(円)
(2)	種畜生産及び家畜試験研究	22860000
(3)	家畜改良増殖	55800000
(4)	漁港施設	74196000
(5)	農林漁業資金	410000000
(6)	土地改良	90000000
(7)—1	森林開発	57331000
(7)—2,(8)	治山治水	70200000
(9)	護岸施設	146196000
(10)—1	道路整備	93800000
(10)—2	農業施設	59400000
(11)	港湾施設	70200000
(12)	公営住宅	90360000
(13)	農山漁村電気導入	36609000
(14)	気象観測設備整備	37302000
(17)	中小企業融通資金	90000000

(18)—1	ハンセン氏病療養所備品	10,800,000
(18)—2	フィラリヤ対策	10,800,000
(18)—3	精神病医薬品	5,208,000
(18)—4，5	医学図書館等整備	15,480,000
(19)	無医地区診療所整備	15,660,000
(21)	清掃施設整備	92,160,000
(22)—A	精神衛生対策	102,821,000
(23)	結核病床増設等	33,449,000
(24)—A	結核患者等本土収容治療	7,702,000
(26)	児童福祉施設	346,555,000
(27)	生活保護事業	102,651,000
(30)	公務員退職年金	140,000,000
(31)	医療保険	60,000,000
(32)	教職員給与	1,903,735,000
(33)—A	公立小中学校屋内運動場	27,118,000
(33)—B	公立小中学校普通教室等	384,797,000
(33)—C	特殊学校施設等	43,453,000
(34)	学校備品	104,841,000
(35)	学校図書館図書	23,662,000
(36)	教科書無償給与	182,929,000

(39)	育英奨学資金	54,756,000
(43)—3	青年及び婦人本土教育研究活動	1,027,000
(45)	体育関係全国大会参加	2,000,000
(46)	農業試験研究施設整備	22,309,000
(47)	病害 虫防除対策	19,440,000
(48)	職業訓練施設	7,254,000
(49)—2	ハンセン氏病対策	1,822,000
(50)—A	原爆被爆者対策	5,041,000
(53)	航路標識	28,346,000
	小　計	4,831,170,000

2. その他の援助計画

項目番号	項　目	金　額(円)
(1)	模範農場	14,152,000
(15)	高層気象台備品及び消耗品	44,562,000
(16)	先島ＴＶ置局	217,280,000
(22)—B	精神衛生対策	1,314,000
(24)—B	結核患者等本土収容治療	207,936,000
(25)	医師歯科医師派遣	89,949,000
(41)	国費奨学生計画	83,229,000
(42)—1	教員等本土研修	12,769,000

(42)－2	琉球大学教員本土研修	4,176,000
(43)－1	教育指導員派遣	12,996,000
(43)－2	現職教員再教育講習	9,072,000
(43)－3	琉球大学への教授派遣	278,2000
(44)－1，2，5	技術援助	69,730,000
(44)－3	文化財復旧	634,000
(44)－4	農業教育近代化研修	2,364,000
(49)－1	ハンセン氏病対策	2,992,000
(50)－B	原爆被爆者対策	553,000
(51)	琉球大学医学部設置調査	8,394,000
(52)	文化財展開催	5,301,000
(60)	ＵＨＦ回線設置調査	10,020,000
	小　計	800,205,000

3. 日本国政府が南方同胞援護会を通じて行なう援助計画

項目番号	項　目	金　額（円）
(20)	ハンセン氏病治療医薬品	2,520,000
(28)	民間福祉施設に対する資金	10,800,000
(29)	母子家庭に対する資金貸付	7,200,000
(37)	公民館図書	15,192,000
(38)	学用品無償給与	24,671,000
(40)	遺児育英資金	360,000
(54)	ハンセン氏病患者更生資金	1,000,000
(55)	整肢療護園施設	21,240,000
(56)	精和病院増築	20,084,000
(57)	身体障害者職業補導所施設整備	6,835,000
(58)	福祉病院施設整備	9,694,000
(59)	遺族の家建設	50,000,000
	小　計	169,596,000

4. 総　額　5,800,971,000円

付表の項目番号、項目及び金額の区分に関する

説明書

ここで特に説明のないものは、昭和40年11月2日の協議委員会で決定された項目番号、項目及び金額の区分（参照：

Proposed Economic Assistance Program from the Government of Japan to the Ryukyu Islands for Japan Fiscal Year 1966 (FY 1967) ..... 29 October 1965

）と同じである。

この付表において、同協議委員会で決定された項目番号、項目及び金額の区分と異にして配列したものは次のとおりである。

1. 項目番号(22)について　　計画番号（PROGRAM No）

琉球政府で管理する資金（援助金）は、22－1措置費¥101.606.000（$282.238）と22－2調査費のうちの調査費¥1.215.000（$3.375）の合計¥102.821.000（$285.613）である。

総理府で管理する資金（その他の援助）は、22－2調査費のうちの旅費¥1.314.000（$3.650）である。

援助金の項目番号は、(22)－Aとし、その他の援助の項目番号は(22)－Bとしてある。なお、項目の名称は(22)－Aと(22)－Bの双方を精神衛生対策としてある。

2. 項目番号(24)について

援助金は、24－1－a結核患者治療の旅費¥7.609.000（$21.136）と24－1－cハンセン氏病患者治療費のうち旅費¥93.000（$258）の合計¥7.702.000（$21.394）である。

その他の援助は、24－1－b収容治療費¥207.588.000（$576.633）と24－1－cハンセン氏病患者治療費のうちの患者給付金¥348.000（$967）の合計¥207.936.000（$577.600）である。

援助金の項目番号は(24)－Aとし、その他の援助の項目番号は、(24)－Bとしてある。なお、項目の名称は(24)－Aと(24)－Bの双方を結核患者等本土収容治療としてある。

3. 項目番号(33)について

日本国政府支出予算の国会における承認の基礎となつた区分に従い、(33)学校施設を次のとおり3つの区分とした。

(33)－A公立小中学校屋内運動場は、33－1－aの小学校施設のうちの屋内運動場¥15.408.000（$42.800）と33－1－bの中学校施設のうちの屋内運動場¥18.490.000（$51.363）の合計の80%の¥27.118.000（$75.330）である。

(33)－B公立小中学校普通教室等は、33－1－a、bのう

ちの屋内運動場を控除した金額の80%の¥384797.000（$1.068881≒1.068879）である。

（内訳）

小学校分

普通教室

¥146880000（$408000）×80%＝¥117504000（$326400）

特別教室

¥106920000（$297000）×80%＝¥85536000（$237600）

職員室

¥30600000（$85000）×80%＝¥24473000（$68000）

へき地教員住宅

¥6746460（$18739）×80%＝¥5397168（$14991）

中学校分

普通教室

¥73440000（$204000）×80%＝¥58752000（$163200）

特別教室

¥71280000（$198000）×80%＝¥57024000（$158400）

家庭科教室

¥15000000（$41665）×80%＝¥12000000（$33332）

職員室

¥23400000（$65000）×80%≒¥18714000（$51984）

へき地教員住宅

¥6746460（$18739）×80%＝¥5397168（$14991）

合　計

¥384797000（$1.068881≒1.068879）

(33)－c 特殊学校施設等は、33－2345の合計¥4345000（$120703）である。

4. 項目番号(50)について

援助金は、原爆医療専門家旅費¥553000（$1536）を除いた金額¥5041000（$14003）である。

その他の援助は原爆医療専門家旅費¥553000（$1536）である。

援助金の項目番号は(50)－Aとし、その他の援助の項目番号は(50)－Bとしてある。なお、項目の名称は、(50)－Aと(50)－Bの双方を原爆被爆者対策としてある。

5. 項目番号(44)について

その他の援助のうち、44技術援助は、日本国政府支出予算の国会における承認の基礎となつた区分に従い、付表のとおり3つの区分とした。

(Draft)

MEMORANDUM CONCERNING ITEMS AND COSTS OF AID PROJECTS OF THE GOVERNMENT OF JAPAN TO THE RYUKYU ISLANDS FOR THE JAPANESE FISCAL YEAR OF 1966

An understanding has been reached between the Prime Minister's Office, Government of Japan and the Government of the Ryukyu Islands through the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands that since the budgetary appropriations of the Government of Japan have been established for its assistance to the Ryukyu Islands in the Japanese Fiscal Year of 1966 (April 1966 through March 1967) as listed in the annex under this Memorandum as the Japanese Government's Aid Program, the Government of Japan will disburse the funds appropriated for this purpose in accordance with the relevant laws and regulations of Japan, and that the Government of the Ryukyu Islands will agree with such an assistance program.

Director Special Areas Liaison Bureau Prime Minister's Office Government of Japan	Director ~~Administrative Services~~ General Affairs Department Government of the Ryukyu Islands 新行
Date: ~~JUL 1 5 1965~~	Date:
	Approved for the High Commissioner:
	Executive Officer
	Date:

Annex

JAPANESE GOVERNMENT'S AID PROGRAM TO THE RYUKYU ISLANDS FOR JFY 1966

I. Aid Projects by Aid Funds

Item ~~No.~~ Number	Item	Amount
(2)	Livestock, Breeding ~~and~~ Research and	¥22,860,000
(3)	Livestock Improvement	55,800,000
(4)	Fishing Ports Facilities	74,196,000
(5)	Funds for Agriculture, Forestry and Fisheries	~~410,000,000~~
(6)	~~Agricultural Land Development~~	90,000,000
(7)-1	Forestry Development	57,331,000
(7)-2, (8)	Mountain Conservation and Flood Control	~~70,200,000~~
(9)	Retaining Walls	146,196,000
(10)-1	Roads and Bridges ~~Roads and Bridges~~ ~~Roads~~	73,800,000
(10)-2	Farm-to-Market Roads	59,400,000
(11)	Piers and Harbors	70,200,000
(12)	Municipal Housing	90,360,000
(13)	Rural Electrification	36,609,000
(14)	Weather Station Facilities	37,302,000
(17)	Loan to Small and Medium Industries.	90,000,000

Funds for

(18)-1	Equipment for Leprosarium ~~Leprosarium Equipment~~	¥10,800,000
(18)-2	Filariasis Eradication ~~Control~~	10,800,000
(18)-3	Drugs for Mental Patients ~~Treatment of Mental Disease~~	8,208,000
(18)-4, 5	Books for Medical Library, etc.	15,680,000
(19)	Clinics in Doctorless Areas	15,660,000
(21)	Trash Disposal Facility	92,160,000
(22)-A	Mental Hygiene Program	102,821,000
(23)	TB Treatment Facilities ~~Bed Increase, etc. for TB Patients~~	33,449,000
(24)-A	Hospitalization of TB and Other Patients in Japan Proper	7,702,000
(26)	Child Welfare Facilities	38,655,000
(27) ~~(28)~~	Daily Life Security Program	102,651,000
(30)	~~Government Employees~~ Retirement Annuity ~~Program~~	140,000,000
(31)	Medical Insurance	60,000,000
(32)	~~Education Personnel Salaries~~ School Teachers' Salary	1,903,735,000
(33)-A	Gymnasium for Public Elementary and Junior High Schools	27,118,000
(33)-B	~~Ordinary~~ Classrooms etc. for Public Elementary and Junior High Schools	384,787,000
(33)-C	Facilities and Equipment for Special Schools ~~Facilities, etc.~~	43,453,000
(34)	School Equipment	104,841,000

(35)	School Library Books	¥ 23,162,000
(36)	Free Textbook Program	182,929,000
(39)	Scholarship Loan Program	54,756,000
(42)-3	Cultural Exchange	1,027,000
(45)	Sports Teams to Japan	2,000,000
(46)	~~Improvement of~~ Agricultural Research	22,309,000
(47)	~~Preventive Measures against~~ Blight and Noxious Insects (Control)	19,440,000
(48)	Vocational Training Facilities	7,254,000
(49)-2	HANSEN'S DISEASE PREVENTIVE MEASURES	1,822,000
(50)-A	Treatment of Atomic Bomb Sufferers (PATIENTS)	404,000
(53)	Navigational Aids	28,346,000
	Sub-total ~~Amount~~	4,831,170,000

II Other Aid Projects

Item ~~No.~~ Number	Item	Amount
(1)	Model Farm	¥ 14,152,000
(15)	Weather Station Supplies ~~and~~ Equipment and	44,562,000
(16)	Television Facilities for Broadcasting	217,280,000

(22)-B	Mental Hygiene Program	¥ 1,314,000
(24)-B	Hospitalization of TB and Other Patients in Japan Proper	207,936,000
(25)	Doctors and Dentists from Japan Proper	28,949,000
(41)	JAPAN National ~~Gov't~~ Scholarship Program	83,229,000
(42)-1	Training of OKINAWAN Teachers ~~etc.~~ in Japan Proper	12,769,000
(42)-2	University of the Ryukyus Faculty Members' Training in Japan Proper	4,476,000
(43)-1	Teacher Consultant Program	12,996,000
(43)-2	Retraining of Okinawan Teachers	8,072,000
(43)-3	Dispatch of Professors to University of the Ryukyus	2,782,000
(44)-1,2,5	Technical Assistance	69,730,000
(44)-3	Restoration of Cultural Properties	634,000
(44)-4	Agricultural Education (MODERNIZATION)	2,364,000
(49)-1	Hansen's Disease Preventive Measures	2,992,000
(50)-B	Treatment of Atomic Bomb PATIENTS	553,000
(51)	MEDICAL SCHOOL SURVEY-UNIVERSITY OF RYUKYUS	8,394,000
(52)	Exhibition of the Japanese Cultural OBJECTS	1,370,000
(60)	TELEPHONE CIRCUIT SURVEY	10,020,000
	Sub-total ~~Amount~~	800,205,000

III Aid Projects executed by the Government of Japan through the Nampo Doho Engo Kai

Item ~~No.~~ Number	Item	Amount
(20)	Drugs for Treatment of Hansen's Desease	¥ ~~2,520,000~~
(28)	FUNDS FOR WELFARE INSTITUTIONS	10,800,000
(29)	Welfare Loan Fund	7,200,000
(37)	Books for Community Centers	15,192,000
(38)	School Supplies	24,671,000
(40)	Assistance to Bereaved (FAMILY) Students	360,000
(54)	~~Subsidy to~~ Rehabilitation Funds for Hansen's Disease Patients	1,000,000
(55)	OKINAWA CRIPPLED CHILDREN'S HOSPITAL FACILITIES	21,240,000
(56)	MENTAL (SEIWA) HOSPITAL FACILITIES	20,084,000
(57)	PHYSICALLY HANDICAPPED VOCATIONAL TRAINING CENTER FACILITIES	6,835,000
(58)	~~Improvement of the~~ Welfare Hospital FACILITIES	9,694,000
(59)	HOSTEL FOR WAR BEREAVED FAMILIES.	50,000,000
	Sub-total ~~Amount~~	169,596,000

IV Total ~~Amount~~ Amount ¥ 5,800,971,000

総理府

5

タイプ指示	発信用	執務用	計
主信	1	0	1
付属	その他		

発送日 昭和41年5月30日

発信 S タイプ 校 [illegible]

文書課長 [illegible]

公信案 (分類)

公信番号 米北 第 686 号 公信日付 昭和 昭和41年5月27日

~~大臣~~
政務次官
事務次官
外務審議官
~~官房長~~

主管 北米局長
参事官
北米課長
主任

起案 昭和41年5月27日

起案者 渡辺 電話番号 443 (アト森山)

受信者 総理府 特別地域連絡局長

発信者 北米局長

写送付先

(希望発送日) 月 日

件 昭和41会計年度における日本国政府の琉球諸島に対する援助計画の項目及び金額に関する覚書案について.

GA-2

27 外務省 287

回覧番号

昭和41会計年度における日本国政府の琉球諸島に対する

援助計画の項目及び金額に関する覚書案について.

5月16日付 豊信総特 第1551号 に関し.

昭和41会計年度における日本国政府の琉球諸島に

対する援助計画の項目及び金額に関する覚書案は. 5月27

日付書簡 (写別添1) をもって 在京米大使館に転交.

早急 検討方を要請したので. 通報します.

なお 米側に ~~[illegible]~~ 転交した覚書案 英文 ~~[illegible]~~ は 別添2のとおり ~~[illegible]~~

であります. ~~[illegible]~~

ここから起案して下さい

GA-4 付属物添付 外務省

Explanatory Notes on Certain Item Numbers, Items, and Amounts in the Annex

The classification of item numbers, items, and amounts other than described herein is made in accordance with the agreement reached at the U.S.-Japan Consultative Committee held on November 2, 1965. (Reference: Proposed Economic Assistance Program from the Government of Japan to the Ryukyu Islands for Japanese Fiscal Year 1966 (FY 1967)... 29 October 1965.)

The item numbers, items and amounts which are different from those in the above-mentioned agreement are as follows.

1. Item Number (22)

The Government of the Ryukyu Islands administers funds (Aid Funds) in the amount of ¥102,821,000 ($285,613) which represents the total of ¥101,606,000 ($282,238) appropriated to Treatment Expense under Program No. 22-1, and ¥1,215,000 ($3,375) appropriated to Survey Expense under Program No. 22-2.

The Prime Minister's Office of the Government of Japan administers funds (other than Aid Funds) in the amount of ¥1,314,000 ($3,650) appropriated to Travel Expense under Program No. 22-2.

In the Annex, the funds to be administered by the GRI are listed under Item No. (22)-A, and those administered by the Prime Minister's Office are listed under Item No. (22)-B, both under the title of Mental Hygiene Program.

2. Item Number (24)

Aid Funds amount to ¥7,702,000 ($21,394) which represents the total of ¥7,609,000 ($21,136) appropriated to Travel Expense under Program No. 24-1-b, and ¥93,000 ($258) appropriated to Travel Expense under Program No. 24-1-c.

Funds

Funds other than Aid Funds amount to ¥207,936,000 ($577,600) which represents the total of ¥207,588,000 ($576,633) appropriated to Hospitalization and Treatment Expense under Program No. 24-1-b, and ¥348,000 ($967) appropriated to Allowances for Patients under Program No. 24-1-c.

In the Annex, Aid Funds are listed under Item No. (24)-A, and funds other than Aid Funds are listed under Item No. (24)-B, both under the title of Hospitalization of TB and Other Patients in Japan Proper.

3. Item Number (33)

In accordance with the classification which was the basis for the appropriation of the GOJ budget by the Diet, Program No. 33, School Facilities, is divided in the Annex into the following three parts:

(33)-A, Gymnasium for Public Elementary and Junior High Schools:

¥27,118,000 ($75,330) which represents 80% of the total of ¥15,408,000 ($42,800) appropriated to Gymnasium under Program No. 33-1-a, and ¥18,490,000 ($51,363) appropriated to Gymnasium under Program No. 33-1-b.

(33)-B, Ordinary Classrooms, etc. for Public Elementary and Junior High Schools:

¥384,797,000 ($1,068,881 + $1,068,879) which represents 80% of the amount appropriated to Program No. 33-1-a, b, less the above amount appropriated to Gymnasia.

Details

Elementary School

Ordinary classrooms ....¥146,880,000($408,000) x 80%
= ¥117,504,000($326,400)
Special classrooms .....¥106,920,000($297,000) x 80%
= ¥ 85,536,000($237,600)

Superintendent's

Superintendent's rooms .¥ 30,600,000($ 85,000) x 80%
= ¥ 24,473,000($ 68,000)

Housing for remote area
teachers .....¥ 6,746,460($ 18,739) x 80%
= ¥ 5,397,168($ 14,991)

Junior High School

Ordinary classrooms ....¥ 73,440,000($204,000) x 80%
= ¥ 58,752,000($163,200)

Special classrooms .....¥ 71,280,000($198,000) x 80%
= ¥ 57,024,000($158,400)

Home economics rooms ....¥ 15,000,000($ 41,665) x 80%
= ¥ 12,000,000($ 33,332)

Superintendent's rooms .¥ 23,400,000($ 65,000) x 80%
= ¥ 18,714,000($ 51,984)

Housing for remote area
teacher .....¥ 6,746,460($ 18,739) x 80%
= ¥ 5,397,168($ 14,991)

Total .....¥384,797,000(1,068,881 → $1,068,879)

(33)-C, Facilities and Equipment for Special Schools:

¥43,453,000 ($120,703) represents the total of the amounts appropriated to Program No. 33-2, 33-3, 33-4 and 33-5.

4. Item Number (50)

Funds other than Aid Funds amount to ¥553,000($1,536) which is appropriated to Travel Funds for GOJ Radioactivity Treatment Specialists.

Aid Funds amount to ¥5,041,000 ($14,003) which is the remainder of the amount appropriated to this Program.

In the Annex, Aid Funds are listed under Item No. (50)-A, and funds other than Aid Funds are listed under Item No. (50)-B, both under the title of Treatment of Atomic Bomb Patients.

5.

5. Item Number (44)

In accordance with the classification which was the basis for the appropriation of the GOJ budget by the Diet, Program No. 44, Technical Assistance, is divided into three parts as listed in the Annex.

~~(Draft)~~

MEMORANDUM CONCERNING ITEMS AND COSTS OF AID PROJECTS OF THE GOVERNMENT OF JAPAN TO THE RYUKYU ISLANDS FOR THE JAPANESE FISCAL YEAR OF 1966

An understanding has been reached between the Prime Minister's Office, Government of Japan and the Government of the Ryukyu Islands through the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands that since the budgetary appropriations of the Government of Japan have been established for its assistance to the Ryukyu Islands in the Japanese Fiscal Year of 1966 (April 1966 through March 1967) as listed in the annex under this Memorandum as the Japanese Government's Aid Program, the Government of Japan will disburse the funds appropriated for this purpose in accordance with the relevant laws and regulations of Japan, and that the Government of the Ryukyu Islands will agree with such an assistance program.

Director
Special Areas Liaison Bureau
Prime Minister's Office
Government of Japan

Date:

Director
General Affairs Department
Government of the
Ryukyu Islands

Date:

Approved for the High Commissioner:

~~Executive Officer~~
CHIEF OF ADMINISTRATION

Date:

Annex JAPANESE GOVERNMENT'S AID PROGRAM TO THE RYUKYU ISLANDS FOR JFY 1966

I. Aid Projects by Aid Funds

Item Number	Item	Amount
(2)	Livestock Research and Breeding	¥22,860,000
(3)	Livestock Improvement	555,800,000
(4)	Fishing Port Facilities	74,196,000
(5)	Funds for Agriculture, Forestry and Fisheries	410,000,000
(6)	Agricultural Land Development	90,000,000
(7)-1	Forestry Development	57,331,000
(7)-2,(8)	Mountain Conservation and Flood Control	70,200,000
(9)	Retaining Walls	146,196,000
(10)-1	Roads and Bridges	73,800,000
(10)-2	Farm-to-Market Roads	59,400,000
(11)	Piers and Harbors	70,200,000
(12)	Municipal Housing	90,360,000
(13)	Rural Electrification	36,609,000
(14)	Weather Station Facilities	37,302,000
(17)	Loan Funds for Small and Medium Industries	90,000,000
(18)-1	Equipment for Leprosarium	10,800,000
(18)-2	Filariasis Eradication	10,800,000
(18)-3	Drugs for Mental Patients	8,208,000

(18)-4,5	Books for Medical Library, etc.	¥15,480,000
(19)	Clinics in Doctorless Areas	15,660,000
(21)	Trash Disposal Facility	92,160,000
(22)-a	Mental Hygiene Program	102,821,000
(23)	TB Treatment Facilities	33,449,000
(24)-a	Hospitalization of TB and Other Patients in Japan Proper	7,702,000
(26)	Child Welfare Facilities	34,655,000
(27)	Daily Life Security Program	102,651,000
(30)	Government Employee's Retirement Annuity Program	140,000,000
(31)	Medical Insurance	60,000,000
(32)	School Teachers' Salary	1,903,735,000
(33)-a	Gymnasium for Public Elementary and Junior High Schools	27,118,000
(33)-b	Ordinary Classrooms, etc. for Public Elementary and Junior High Schools	384,797,000
(33)-c	Facilities and Equipment for Special Schools	43,453,000
(34)	School Equipment	104,841,000
(35)	School Library Books	23,662,000
(36)	Free Textbook Program	182,929,000
(39)	Scholarship Loan Program	54,756,000
(42)-3	Cultural Exchange	1,027,000

(45)	Sports Teams to Japan	¥ 2,000,000
(46)	Agricultural Research	22,309,000
(47)	Blight and Noxious Insects Control	19,440,000
(48)	Vocational Training Facilities	7,254,000
(49)-2	Hansen's Disease Preventive Measures	1,822,000
(50)-a	Treatment of Atomic Bomb Patients	5,041,000
(53)	Navigational Aids	28,346,000
	Sub-total	4,831,170,000

II. Other Aid Projects

Item Number	Item	Amount
(1)	Model Farm	¥14,152,000
(15)	Weather Station Equipment and Supplies	44,562,000
(16)	Television Facilities for Sakishima	217,280,000
(22)-b	Mental Hygiene Program	1,314,000
(24)-b	Hospitalization of TB and Other Patients in Japan Proper	207,936,000
(25)	Doctors and Dentists from Japan Proper	89,949,000
(41)	Japan National Scholarship Program	83,229,000
(42)-1	Training of Okinawan Teachers in Japan Proper	12,769,000
(42)-2	University of the Ryukyus Faculty Members' Training in Japan Proper	4,176,000

(43)-1	Teacher Consultant Program	¥12,996,000
(43)-2	Retraining of Okinawan Teachers	9,072,000
(43)-3	Dispatch of Professors to University of the Ryukyus	2,782,000
(44)-1,2,5	Technical Assistance	69,730,000
(44)-3	Restoration of Cultural Properties	634,000
(44)-4	Agricultural Education Modernization	2,364,000
(49)-1	Hansen's Disease Preventive Measures	2,992,000
(50)-b	Treatment of Atomic Bomb Patients	553,000
(51)	Medical School Survey-University of the Ryukyus	8,394,000
(52)	Exhibition of Japanese Cultural Objects	5,301,000
(60)	Telephone Circuit Survey	10,020,000
	Sub-total	800,205,000

III. Aid Projects executed by the Government of Japan through the Nampo Doho Engo Kai

Item Number	Item	Amount
(20)	Drugs for Treatment of Hansen's Disease	¥ 2,520,000
(28)	Funds for Welfare Institutions	10,800,000
(29)	Welfare Loan Fund	7,200,000
(37)	Books for Community Centers	15,192,000
(38)	School Supplies	24,671,000

(40)	Assistance to Bereaved Family Students	¥ 360,000
(54)	Rehabilitation Funds for Hansen's Disease Patients	1,000,000
(55)	Okinawa Crippled Children's Hospital Facilities	21,240,000
(56)	Mental (Seiwa) Hospital Facilities	20,084,000
(57)	Physically Handicapped Vocational Training Center Facilities	6,835,000
(58)	Welfare Hospital Facilities	9,694,000
(59)	Hostel for War Bereaved Familites	50,000,000
	Sub-total	169,596,000

IV. Total Amount ¥5,800,971,000

Tokyo, May 27, 1966.

Dear Mr. Bruns,

I am enclosing herewith 3 copies of the Japanese draft of Memorandum concerning Items and Costs of Aid Projects of the Government of Japan to the Ryukyu Islands for the Japanese Fiscal Year of 1966.

I would appreciate an early response from the United States side on the result of the examination of the Japanese draft by the USCAR and the GRI.

Sincerely yours,

Sumio Edamura
Chief
North American Section
North American Affairs Bureau

Mr. William H. Bruns,
First Secretary,
Embassy of the United States
of America,
Tokyo.

原本

○印は本年と同じ
◎印は部分的修正

昭和41会計年度における琉球諸島に対する援助金に関する覚書（案）

（目的）

1 琉球諸島の住民の安寧と福祉及び経済発展を増進させるための援助を与えるため、日本国政府総理府（以下「総理府」という。）は、昭和41会計年度（1966年4月1日から1967年3月31日まで）において、合計4,831,170,000円の金額の範囲内の援助金を、この覚書の一部となっている別添付表（米民政府意見）~~（以下「付表」という。）~~に定める区分に従って、琉球諸島米国民政府（以下「米国民政府」という。）を

通じて琉球諸島政府（以下「琉球政府」という。）に供与する。

（用語定義）

2 この覚書において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

a 事業項目（Project item）　付表に定める援助金の各項目をいう。

b 事業細目（Project detail）　事業項目の細分で、原則として、琉球政府が契約の単位とするものをいう。

c 実行計画（Execution plan）　事業項目及び事業細目

ごとに，総事業費及びその負担区分，援助金の請求計画，着手予定年月日及び完了予定年月日，昭和41会計年度内に完了しない事業項目についてはその理由，及び事業計画送付予定年月日等を記載したものをいう。

Project plan
d 事業計画 ~~事業項目ごとに，各事業細目について~~ 各事業項目について，事業細目別に区分して，~~目について~~ 大廃法 改訂 場所，目的及び

内容，見積価格，着手予定年月日及び完了予定年月日等を記載したものをいう。

Gaisan barai
e 概算払 事業項目の事業のすべてが完了する前に，当該事業項目の援助金の一部又は全部を支払う支払方法をいう。

（通貨の種類）

3 援助金は，日本国政府が琉球政府の非居住者自由円勘定に貸記する方法により供与する。

（実行計画）

第四 琉球政府は，総理府に対して事業計画の事前同意を求める前に，実行計画を作成し，米国民政府を通じて総理府に送付し，総理府は，同実行計画に基づいて事業計画に対する事前同意及び援助金の支払に必要な準備を行なうものとする。

（事業計画）

五 琉球政府は，事業計画を作成し，同事業計画に対し，米国民政府を通じて総理府の事前同意を求めるものとする。

事業計画が総理府によって同意された

場合には，琉球政府は同事業計画を実施に移すものとする。

（援助金の交付）

六 各事業項目に対する援助金は，その事業が満足に完了した旨の第12項の報告書が総理府に送付された後に，琉球政府に対して交付されるものとする。ただし，概算払を行なうことができる。

（援助金の繰越）

七 援助金は，原則として琉球政府により昭和41会計年度内において使用されるものとする。ただし，昭和41会計年度内において使用

されなかった援助金については、これらの援助金が昭和42会計年度（1967年4月1日から1968年3月31日まで）中に使用されることができるよう、日本国の関係法令に基づいて必要措置がとられるものとする。

改 （交付の条件）

8 援助金は、第5項に基づいて総理府の同意を得た事業計画に従って使用されなければならない。

第5項に基づいて総理府の同意を得た事業計画に変更の必要が生じた場合は、琉球政府は、第5項に定めるのと同様の方法に

よって総理府の事前同意を求めなければならない。ただし、その変更が軽微な変更である場合はこの限りではない。

（進捗状況の報告）

9 琉球政府は、総理府によって資金を交付される援助事業の進捗状況について、四半期報告書を米国民政府に提出するものとする。

同報告書は、米国民政府を通じて総理府に送付されるものとする。

（技術専門家の派遣）

10 援助金によって行なわれる事業に関し、

総理府は，琉球政府の要請があり，かつ，米国民政府によって承認されたときは，特定の事業計画における必要な技術指導を行なうため，関係当局の専門家を派遣することができる。

（援助金の誤用）

11 援助金が，事業の本来の目的に従って使用されていない場合又はこの覚書の条件に違反して使用された場合は，総理府は，米国民政府を通じて琉球政府に対し，その誤用の是正を勧告し，又は援助金の一部又は全部の返還を求める

ことができる。

（完了の報告）a project item

2 琉球政府は、事業項目の事業のすべてが完了した場合は、その完了報告書を米国民政府に提出するものとする。同報告書は、総理府に転送されるものとする。

琉球政府の会計検査院による事業の検査報告書は、同様の方法により、じ後可及的すみやかに提出されるものとする。

一部改 （会計検査）

3 総理府は、この覚書の条件に基づいて、資金を交付した事業の完了及び援助金

の適正な支出を確認するため、職員を派遣

することができる。

同職員は、総理府、米国民政府及び

琉球政府によって同意された条件に従

って、~~次の場合に~~ 一部又はすべての事業項目についての完了報告書が総理府に送付された後に、派遣されるものとする。

~~a 援助事業の進捗状況に関する~~

~~四半期報告書が事業の完了を示した後~~

~~b すべての事業が完了した後~~

（意図された目的のための器材の使用）

14 援助金によって調達される器材及び施設

に関しては、これらに対する完全かつ

明確な所有権が琉球政府に帰属する

ものとする。ただし、当該器材及び施設

は、琉球政府から提出されている計画に

掲げられた目的を果すために使用され

るものとする。

（覚書の修正）

15 この覚書の規定に修正の必要が生じた

ときは、総理府、米国民政府及び琉球政府

の合意によってその修正を決定するもの

とする。

新

（第5項に基づき、総理府が付表に掲げる金額及び事業項目に移動を生ずる結果となる ~~異る~~ 事業計画に同意したときは、同意した ~~その~~ 事業に対応するように ~~である~~ 計画付表の修正が行なわれた

ものとみなす。第8項に基き、事業計画の変更が行なわれた場合も同様とする。

（覚書の効力）

16 この覚書は、琉球政府が、これについて米国民政府の承認を得た日から効力を発する。

附　則

（覚書実施上の細目）

この覚書の実施のために必要と認められる細目については、総理府、米国民政府及び琉球政府の合意により決定されるものとする。

日本国政府総理府　　琉球政府
特別地域連絡局長　　総務局長

昭和　年　月　日　　年　月　日

高等弁務官に代って承認する。

行政官

年　月　日

付表

昭和41会計年度日本国政府対琉援助金

（単位：円）

項目番号	項目	金額	事業要目	
(2)	種畜生産及び家畜試験研究	22,860,000	1 琉球家畜試験場の施設、備品の整備	16,380,000
			2 ~~沖縄~~琉球動物検疫所の施設整備	6,480,000
			~~種畜の購入~~	
(3)	家畜改良増殖	65,800,000	種畜の購入	
(4)	漁港施設	74,196,000	漁港名　　工種	
			池間港　　岸壁	
			漁名嘉港　　浚渫	
(5)	農林漁業資金	410,000,000	1. 農林漁業中央金庫出資金	360,000,000
			2. 漁船建造資金融通特別会計繰入	50,000,000
(6)	土地改良	90,000,000	政府管	31,600,000
			工事地区	
			美里村東部	
			羽地村西部	
			組合管	58,320,000
			工事地区	

項目番号	項目	金額	事業要目		
			目頭村半地		
			仲里村中部		
			平良市西原		
			石垣市石垣		
			豊見城村下原		
			羽地村西部		
			今帰仁村古宇		
(7)—1	森林開発	57.331.000	1. 官有林造林		17.040.000
			2. 民有林造成		15.086.000
			3. 樹苗養成事業		1.922.000
			4. 保安林造成及改良		14.805.000
			5. 果地防風林造成		7.665.000
			6. 山地荒廃復旧並びに防止		915.000
(7)—2.(8)	治山 治水	70.200.000	1. 治山事業		16.200.000
			工事地区	工種	
			目頭村真川	砂防ダム	
			目頭村仲泊川	砂防ダム	
			名護町名護	砂防ダム	
			2. 治水事業		54.000.000
			工事地区	工種	

総理府

項目番号	項目	金額	事業要目
			国頭村比地川　河川改修
			恩納村安富祖川　砂防ダム
			国頭村安田川　砂防ダム
			国頭村安田川　流路工
			大宜味村饒波川　砂防ダム
(9)	護岸施設	146,196,000	耕地護岸の建設
			工事地区
			中城村久場
			具志川村具志川
			下地町与那覇長崎浜
			石垣市川平下田原
			石垣市川平浦田原
			玉城村仲村渠下原
			今帰仁村今帰仁シンク原
			東村~~平屋比原~~平良屋之北原
			勝連村平安名
			与那城村平安座
			具志川村仲泊(久米島)
(10)-1	道路整備	73,800,000	橋梁の建設
			工事地区

総理府

3

項目番号	項目	金額	事業要目
			国頭村安波御幷橋 竹富町大富仲町橋 間
(10)-2	農業施設	59,400,000	農道の建設 大宜味村喜如嘉ほか22ヶ所。
(11)	港湾施設	70,200,000	港名　工種 渡名喜港　浚渫 自浜港　岸壁
(12)	公官住宅	90,360,000	公官住宅第1種 ~~100戸~~ 100戸　第2種 ~~90戸~~ 90戸
(13)	農山漁村電気導入	36,609,000	へき地の農山漁村の無点灯部落に対する電気導入
(14)	気象観測設備整備	37,302,000	気象観測業務に必要な施設の整備 気象観測用備品の購入、気象無線施設及びマイクロウェーブ専用の整備 線借上料
(17)	中小企業融通資金	90,000,000	大衆金融公庫への出資金
(18)-1	ハンセン氏病療養所備品	10,800,000	ハンセン氏病療養所備品の購入

総理府

項目番号	項目	金額	事業要目
(18)-2	フィラリヤ対策	10.800.000	備品及び消耗品の購入
(18)-3	精神病医薬品	8.208.000	精神病医薬品の購入
(18)-4.5	医学図書館等整備	15.480.000	1. 医学図書館用図書の購入 7.200.000 2. 医療施設用図書の購入 8.280.000
(19)	無医地区診療所整備	15.660.000	診療所改築等及び備品購入
(21)	清掃施設整備	92.160.000	じん芥高速堆肥化装置
(22)-A	精神衛生対策	102.821.000	精神障害者実態調査費及び精神障害者措置入院費
(23)	結核病床増設等	33.449.000	結核病床増設及び病院外来棟増設
(24)-A	結核患者等本土収容治療	7.702.000	本土収容結核患者等の渡航費
(26)	児童福祉施設	34.655.000	保育所7ヶ所の建設
(27)	生活保護事業	102.651.000	生活扶助費
(30)	公務員退職手金	140.000.000	制度発足に伴う準備金

総理府

項目番号	項目	金額	事業要目
(31)	医療保険	60,000,000	制度発足に伴う準備金
(32)	教職員給与	1,903,735,000	公立義務教育諸学校(小学校、中学校、盲ろう学校、養護学校)教職員の給与費
(33)-A	公立小中学校屋内運動場	27,118,000	屋内運動場の建設
(33)-B	公立小中学校普通教室等	384,797,000	普通教室、特別教室、へき地教員住宅、職員室、家庭科教室の建設
(33)-C	特殊学校施設等	49,453,000	肢体不自由児及び精神薄弱児のための養護学校(盲学校及びろう学校)の施設並びに備品車輌の整備
(34)	学校備品	104,841,000	1. 中学校の保健体育、音楽備品の整備 2. 小、中、高等学校の理科教育設備の整備 3. 小、中学校の視聴覚教材の整備
(35)	学校図書館図書	23,662,000	小、中、高等学校及び特殊学校の図書館用図書の整備
(36)	教科書無償給与	182,929,000	小学校全児童、中学校全生徒及び琉球政府立盲学校(小、中)の全児童生徒に対する教科書の無償給与~~業務経費~~
(37)	育英奨学資金	54,766,000	琉球在住の高等学校の生徒及び大学生に対する特別奨学資金

項目番号	項目	金額	事業要目
(43)-3	青年及び婦人本土教育研究活動	1.027.000	琉球の青年及び婦人の日本本土における教育研究活動渡航費
(45)	体育関係全国大会参加	2.000.000	日本本土における各種の全国体育大会に参加する選手団の経費
(46)	農業試験研究施設整備	22.309.000	農業試験場の施設及び備品の整備
(47)	病害虫防除対策	19.440.000	大型防除機30台の購入
(48)	職業訓練施設	7.254.000	職業訓練施設の建設及び備品の整備
(49)-2	ハンセン氏病対策	1.822.000	非常勤職員給与、備品、消耗品費
(50)-A	原爆被爆者対策	5.041.000	健康診断費、医療費、医療手当、その他
(53)	航路標識	28.346.000	東平安名埼灯台の建設
	合計	4.831.170.000	

(注) 上記各項目の援助金には、各事業完了後の運営費及び経常費を含まない。

総理府

物品の購入に関するトーキングペーパー

日本国の援助金によって実施される事業に必要な物品の購入については，外国商品に対して琉球及び日本国の商品の価格及び品質が対抗できる場合には，同商品に優先権を与える。

第1条と同じ

総理府

T1

第14項に関するトーキングペーパー

第14項の（意図された目的のための器材の使用）には，援助金によって取得された器材，施設を正当な理由なしで，他に譲渡し，貸し付け，交換し又は担保に供するような行為をしてはならないことを含むものと解する。

第1条と同じ

総理府

T2

前年と略同じ

育英奨学資金（項目番号（39））
に関するトーキングペーパー

奨学資金は，琉球における大学及び高等学校に在学する者で特に優秀でありながら，経済的に修学困難な者に対する学資貸与の資金として，次の区分に従って琉球政府を通じ，琉球育英会で使用すること。

1. 大学（全学年）　31,176,000円
2. 高等学校（全学年）　23,580,000円

なお，貸与月額は，高校生徒については，原則として3000円，大学学生については，自宅からの通学者に対しては5,000円，自宅以外からの通学者に対しては8,000円とし，これらの学資貸与金の返還

は，高校生徒にあっては貸与期間1月について1,500円，大学学生にあっては貸与期間1月について3000円を年賦の方法によって学校卒業後20年以内に返還すれば，残額は免除しうるものとして実施されることを期待する。

覚書案に関する説明書

昭和41会計年度における覚書案は、昭和40会計年度における覚書の一部を修正してある。主な修正点及び修正の理由は、次のとおりである。

1. 第2項において、あらたに「用語の定義」に関する規定を設けた。

（理由） この覚書に用いられている用語の意義を明確にするとともに、覚書実施上の便宜を図るためである。

なお、第2項bの「事業細目（ Projet detail ）」は、従来「事業（ Project ）」と理解されていたものである。覚書実施上は、今後も同様に理解されて支障はない。

2. 第4項において、あらたに「実行計画」に関する規定を設けた。

（理由） 従来、総理府における事業計画の承認及び援助金の支払が遅れがちであつたので、「実行計画」を利用して事業計画の承認及び援助金の支払を促進するためである。

なお、「実行計画」に関しては、第9回技術委員会において合意されている。

3. 第5項から第7項までの規定は、従来第3項において「手続」として規定されていたが、今回の案においては、3項に分離して、それぞれの項に標題を設けた。

（理由） 他にも手続に関する規定があり、上記の規定だけを「手続」という標題にするのは適当でない。

また、3項に分離して、それぞれの項に標題を設けた方が、規定が明確になる。

4. 従来の第3項aの契約執行通知及び第3項bの領収書に関する規定を削除した。

（理由） 執行促進及び事務簡素化の趣旨から、総理府の会計事務上必ずしも必要としない書類を省略するためである。

なお、領収書の廃止については、第9回技術委員会において合意されている。

5. 第6項において、援助金の支払方法について、部分払に関する規定を削除した。

（理由） 概算払を活用すれば、従来の部分払の必要はないからである。

なお、このことについては、第9回技術委員会において合意されている。

6. 第8項（交付の条件）に関する規定を修正した。

（理由） (1)従来の規定の意味を明確にすること、及び(2)特定の事業項目から節約額又は不用額が生じる場合、琉球政府が、事業項目間の援助金の流用をできるようにすること。これが修正の理由である。

7. 第9項において、進捗状況報告書の様式について、従来規定されていた「合衆国の援助計画に対する報告書と同様なもの」との規定を削除した。

（理由） 合意されている報告書の様式は、合衆国の援助計画に対する報告書と同様であるとは思われないからである。

8. 第12項において、完了報告書の提出されるべき場合を、「事業項目の事業のすべてが完了した場合」に限ることとするとともに、部分払の請求に関する規定を削除した。

（理由） 事務の簡素化のため、及び部分払の廃止に伴なう措置である。

なお、このことについては、その趣旨が第9回技術委員会において合意されている。

9. 第15項において、承認された事業計画（変更の場合を含む。）が、覚書の付表と異るときは、事業計画の承認によつて、付表は修正されるものとした。

（理由） 事務の簡素化のためである。

北米局長
参事官
北米課長

総特第2126号
昭和41年6月13日

外務省北米局長　殿

総理府特別地域連絡局長

昭和40会計年度における琉球諸島に対する援助金に関する覚書の修正(案)について

昭和40年度沖縄援助金の繰越分の取扱いを，昭和41年度沖縄援助金の取扱いと同様にするため，標記覚書を別添案のとおり修正したいので，対米折衝方を依頼します。

なお，この覚書修正案は，昭和41年度覚書案と併行して折衝されるよう，お願いします。

(別添)
USCAR, GRI, 米大あて送付分は森山保管

文書課受付 41.6.14 発行

総　理　府

総特第2127号
昭和41年6月14日

外務省北米局長　殿

総理府特別地域連絡局長

標記について，別添覚書案により対米折衝方を依頼します。

なお，この覚書案は，昭和40年度における覚書の一部を修正していますが，主な修正点及び修正の理由は，別紙説明書のとおりですので，この説明書を覚書案に添付して先方にお送り願います。

おつて，覚書は6月末以前に締結したいので，早期折衝方特段のご配慮をお願いします。

総　理　府

タイプ指示	発信用	執務用	計
主信	1	1	2
付			
属			

発送日 昭和41年6月23日

発信 タイプ 校査

文書課長 公信案 (分類)

公信番号 米北 第806号 公信日付 昭和41年6月23日

大臣	主管 北米局長	起案 昭和41年6月22日
政務次官	参事官	
事務次官	北米課長	
外務審議官		
官房長	主任	起案者 森山 電話番号 671

受信者 総理府 特別地域連絡局長

発信者 北米局長

写送付先

(希望発送日) 月 日

件名 昭和41~~年度~~会計年度における日本政府の琉球諸島に対する援助金に関する覚書案等について

GA-2 23 76 外務省 回覧番号

米北第806号

昭和41年6月23日

総理府特別地域連絡局長殿

外務省北米局長

昭和41会計年度における日本政府の琉球諸島に対する援助金に関する覚書案について

6月13日付貴信総特第2126号及び6月14日付同第2127号に関し、

昭和41会計年度における日本政府の琉球諸島に対する援助金に関する覚書案(及びその説明書)は、昭和40会計年度における琉球諸島に対する援助金に関する覚書の修正(案)とともに、6月22日付書簡(写別添1)をもって

GA-4 外務省

在京米大使館に転送、米民政府、琉球政府の検討方を要請したので通報します。

なお、米側に転送した覚書案英文は別添2.のとおりであります。

付属物添付

GA-4

外務省

22日 11時 アームストロング参事官に手交した。

Tokyo, June 22, 1966.

Dear Mr. Farrior,

I am enclosing herewith 3 copies each of the Japanese draft of the following documents:

(1) Memorandum concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1966 (with Annex and Talking Papers).

(2) Explanatory Notes on the above Memorandum.

(3) Amendment to Memorandum concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1965.

It is requested that these documents be transmitted at an early date to the USCAR for the examination by the USCAR and the GRI.

Sincerely yours,

Sumio Edamura
Chief,
North American Section,
North American Affairs Bureau,
Ministry of Foreign Affairs.

Mr. John M. Farrior,
First Secretary,
Embassy of the United States
of America,
Tokyo.

MEMORANDUM CONCERNING AID FUNDS
FOR THE RYUKYU ISLANDS FOR JFY 1966

1. (Purpose)

For the purpose of providing assistance to promote the welfare and well-being of the inhabitants of the Ryukyu Islands and their economic development, the Prime Minister's Office of the Government of Japan (hereinafter referred to as the Prime Minister's Office) will provide the Government of the Ryukyu Islands (hereinafter referred to as the Ryukyu Government), through the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands (hereinafter referred to as the United States Civil Administration) with grant-in-aid funds to the extent of an amount totalling ¥4,831,170,000 for the fiscal year of 1966 (1 April 1966 through 31 March 1967) according to the break-down specified in the Annex attached and made a part hereof.

2. (Definition of Terms)

In this memorandum, the terms listed below will be interpreted as specified in the following:

a. Project Item - Respective item of aid funds as described in the Annex.

b. Project Detail - Detailed sub-item of each project item which is to be in principle a unit for each contract made by the Ryukyu Government.

c.

c. Execution Plan - Plan for each project item and project detail specified with such details as total project cost, sources of funds, plan for request of funds, scheduled date of initiation & completion of the project, reason for extension of project period over JFY 1966 (if any), expected time for submission of project plan, etc.

d. Project Plan - Plan for project details in each project item, specified with such details as location, purpose, general discription, estimated cost, expected time of initiation & completion of the project, etc.

e. Gaisan-barai (Roughly estimated advance payment) - Payment in part or in full of the aid funds for each project item before completion of the project concerned.

3. (Type of currencies)

Aid funds will be provided through being credited to the non-resident free yen account of the Ryukyu Government by the Government of Japan.

4. (Execution Plan)

The Ryukyu Government will prepare the execution plan

before

before seeking the prior concurrence of the Prime Minister's Office in the project plan, and will submit it to the Prime Minister's Office through the United States Civil Administration. The Prime Minister's Office, on the basis of the execution plan submitted, will make necessary preparation for the prior concurrence in the project plan and for the payment of aid funds.

5. (Project Plan)

The Ryukyu Government will work out the project plan, and will seek the prior concurrence of the Prime Minister's Office there in through the United States Civil Administration.

When the project plan has been concurred in by the Prime Minister's Office, the Ryukyu Government will proceed to execute it.

6. (Transfer of aid funds)

The aid funds for each project item will be turned over to the Ryukyu Government after a report is sent to the Prime Minister's Office on the satisfactory completion of the project as referred to in paragraph 12 below. However, Gaisan-barai may be made in advance.

7. (Carry-over of aid funds)

The aid funds will, in principle, be expended by the Ryukyu Government during the Japanese fiscal year of 1966.

However,

However, with regard to the aid funds which have not been expended during the Japanese fiscal year of 1966, necessary action will be initiated under related laws and regulations in Japan, so that these funds may be expended during the fiscal year of 1967 (between 1 April 1967 through 31 March 1968).

8. (Conditions of provision)

The aid funds will be used in accordance with the project plan concurred in by the Prime Minister's Office, as provided for in paragraph 5 above.

Should a change become necessary in the project plan concurred in by the Prime Minister's Office under paragraph 5, the Ryukyu Government shall seek advance concurrence therein of the Prime Minister's Office in the same manner as stipulated in paragraph 5. However, in case that the change is of minor nature, no advance concurrence will be necessary.

9. (Report on progress)

The Ryukyu Government will submit to the United States Civil Administration a quarterly report on the progress of the grant-in-aid projects funded by the Prime Minister's Office. Said report will be transmitted to the Prime Minister's Office through the United States Civil Administration.

10.

10. (Dispatch of technical experts)

As to the projects undertaken with the aid funds, the Prime Minister's Office may, if requested by the Ryukyu Government and approved by the United States Civil Administration, dispatch experts of the pertinent authorities for necessary technical instruction in a specific program.

11. (Misuse of aid funds)

In the event that the aid funds are not used in accordance with the purposes intended or in violation of the terms and conditions of the present Memorandum, the Prime Minister's Office may advise the Ryukyu Government through the United States Civil Administration to rectify any misuse of the funds or demand the repayment by the Ryukyu Government of a part or the whole of the aid funds.

12. (Report on completion)

When each project item is fully completed, the Ryukyu Government will submit to the United States Civil Administration a report on completion of the project. Said report will be transmitted to the Prime Minister's Office. *

13. (Audit)

The Prime Minister's Office may dispatch officials to verify completion of projects financed under the terms of this Memorandum and proper expenditure of aid funds.

The officials will be dispatched under such conditions

as

* **The Audit Report on the project, by the Board of Audit of the Ryukyu Government, will be submitted in the same manner as early thereafter as practicable.**

as may be agreed upon by the Prime Minister's Office, the United States Civil Administration and the Ryukyu Government, after submission to the Prime Minister's Office of report on completion of a part or all of the project items.

14. (Utilization of equipment for purposes intended)

With respect to the equipment and facilities procured with the aid funds, full and clear title to the same will rest with the Ryukyu Government, but such equipment and facilities will be utilized to fulfill the purposes foreseen in the program which has been submitted by the Ryukyu Government.

15. (Amendment to Memorandum)

Should an amendment to the provisions of the present Memorandum become necessary, it will be decided on by agreement among the Prime Minister's Office, the United States Civil Administration and the Ryukyu Government.

In case the Prime Minister's Office concur in any of the project plans described in the Annex in accordance with paragraph 5, above in such a manner as to cause alteration in the amount or contents of such project plan, such project plan will be regarded as modified by such concurrence accordingly.

The same principle will apply in case a change is made to any of the project plans in accordance with paragraph 8, above.

16. (Validity of Memorandum)

This Memorandum will enter into force from the day on which the Ryukyu Government has obtained the approval of the United States Civil Administration thereon.

SUPPLEMENT

(Details of Implementation of Memorandum)

Details which may be deemed necessary for the implementation of this Memorandum will be determined by agreement of the Prime Minister's Office, the United States Civil Administration, and the Ryukyu Government.

Director
Special Areas Liaison Bureau
Prime Minister's Office
Government of Japan

Date:

Director
General Affairs Department
Government of the
Ryukyu Islands

Date:

Approved for the High Commissioner:

Executive Officer

Date:

Annex

JAPANESE GOVERNMENT'S AID FUNDS TO THE RYUKYUS FOR JFY 1966

(Unit: Yen)

Item No.	Item	Amount	Description	
(2)	Livestock Research and Breeding	22,860,000	1. Improvement of facilities and equipment for Ryukyu livestock breeding farm.	16,380,000
			2. Improvement of facilities for Ryukyu Animal Quarantine Station.	6,480,000
(3)	Livestock Improvement	55,800,000	Purchase of livestocks	
(4)	Fishing Port Facilities	74,196,000	Name of fishing port / Kind of construction	
			Ikema port — Quay	
			Tonaki port — Dredging	
(5)	Funds for Agriculture, Forestry and Fisheries	410,000,000	1. Investment to the Central Bank of Agriculture, Forestry and Fisheries.	360,000,000
			2. Funds for the GRI Fishing Vessel Construction Special Account.	50,000,000
(6)	Agricultural Land Development	90,000,000	Government facilities	31,680,000
			Location of construction: Tobu, Misato-son; Seibu, Haneji-son	
			Association facilities	58,320,000
			Location of construction: Hanchi, Kunigami-son; Chubu, Nakazato-son; Nishihara, Hirara-shi; Ishigaki, Ishigaki-shi; Shimohara, Tomigusuku-son; Seibu, Haneji-son; Kichiji, Nakijin-son	

Shitabaru

Yoshiji,

(7)-1	Forestry Development	57,331,000	1. Reforestation of government forest	17,040,000
			2. Reforestation of private and municipal forests	15,086,000
			3. Nursery facilities	1,922,000
			4. Development and improvement of protection forests	14,803,000
			5. Development of windbreaks for farm lands	7,565,000
			6. Prevention against devastation of forest land and development of devastated forest	915,000
(7)-2 & (8)	Mountain Conservation Works and Flood Control	70,200,000	1. Mountain conservation works	16,200,000

Location of construction	Kind of construction
Oku river, Kunigami-son	Sandweir
Sate river, Kunigami-son	Sandweir
Nago, Nago-cho	Sandweir

2. Flood control 54,000,000

Location of construction	Kind of construction
Hiji river, Kunigami-son	River retaining walls
Afuso river, Onna-son	Sandweir
Ada river, Kunigami-son	Sandweir
Ada river, Kunigami-son	River repair
Noha — Noha river, Ogimi-son	Sandweir

(9)	Retaining Wall	146,196,000	Construction of farm protection walls

Location of construction

Kuba, Nakagusuku-son
Gushikawa, Gushikawa-son
Nagasakihama, Yonaha, Shimoji-cho
Shimotabaru, Kabira, Ishigaki-shi
Uratabaru, Kabira, Ishigaki-shi
Shitabaru, Nakandakari, Tamagusuku-son
Shukubaru, Nakijin, Nakijin-son
Yanokitahara, Taira, Higashi-son

			Henna, Katsuren-son Heanza, Yonagusuku-son Nakadomari, Gushikawa-son (Kumejima)
(10)-1	Roads and Bridges	73,800,000	Construction of bridges Location of construction Ugan bridge, Aha, Kunigami-son Nakama bridge, Otomi, Taketomi-cho
(10)-2	Farm-to-Market Roads	59,400,000	Construction of farm-to-market roads. Kijoka, Ogimi-son and other 22 locations
(11)	Piers and Harbors	70,200,000	Name of port — Kind of construction Tonaki port — Dredging Shirahama port — Quay
(12)	Municipal Housing	90,360,000	Class I housing - 100 houses Class II housing - 90 houses
(13)	Rural Electrification	36,609,000	To provide remote rural areas with electricity.
(14)	Weather Station Facilities	37,302,000	Improvement of facilities necessary for meteorological observations. Purchase of equipment for meteorological observations, improvement of meteorological wireless facilities, and microwave lease.
(17)	Loans for Small and Medium Industries	90,000,000	Investment to the People's Finance Corporation.
(18)-1	Equipment for Leprosarium	10,800,000	Purchase of equipment for leprosaria.
(18)-2	Filariasis Eradication	10,800,000	Purchase of equipment and supplies.
(18)-3	Drugs for Mental Patients	8,208,000	Purchase of drugs for mental disease.

(18)-4 & 5	Books for Medical Library, etc.	15,480,000	1. Purchase of books for medical library.	7,200,000
			2. Purchase of books for hospitals.	8,280,000
(19)	Clinics in Doctorless Areas	15,660,000	Reconstruction of clinics, etc and purchase of equipment.	
(21)	Trash Disposal Facility	92,160,000	Construction of compost plant for trash disposal.	
(22)-a	Mental Hygiene Program	102,821,000	Survey & treatment expenses for mental patients.	
(23)	TB Treatment Facilities	33,449,000	Construction of beds for TB and facilities for outpatient.	
(24)-a	Hospitalization of TB and Other Patients in Japan Proper	7,702,000	Travel expenses for TB and other patients to and from Japan.	
(26)	Child Welfare Facilities	34,655,000	Construction of 7 nurseries.	
(27)	Daily Life Security Program	102,651,000	Living allowance funds.	
(30)	Government Employee's Retirement Annuity Program	140,000,000	Funds in preparation for lanching the program.	
(31)	Medical Insurance	60,000,000	Funds in preparation for launching the program.	
(32)	School Teachers' Salary	1,903,735,000	Salary for teachers of compulsory education system (Elementary and Junior High Schools, Deaf and Blind School, Mentally Retarded and Physically Handicapped Schools).	
(33)-a	Gymnasium for Public Elementary and Junior High Schools	27,118,000	Construction of gymnasium.	

(33)-b	Ordinary Classrooms, etc for Public Elementary and Junior High Schools	384,797,000	Construction of ordinary classroom, special classroom, housing for remote area teachers, superintendent's room and home economics room.
(33)-c	Facilities and Equipment for Special Schools	43,453,000	Improvement of facilities and equipments for physically handicapped and mentally retarded children's schools, and deaf and blind school.
(34)	School Equipment	104,841,000	1. Purchase of physical education equipment and musical equipment for Junior High School. 2. Purchase of science equipment for Elementary, Junior and Senior High Schools. 3. Purchase of audio visual equipment for Elementary and Junior High Schools.
(35)	School Library Books	23,662,000	Purchase of library books for Elementary, Junior and Senior High Schools and Special Schools.
(36)	Free Textbook Program	182,929,000	Purchase of textbooks for free distribution to all students of Elementary and Junior High School, and Government School for the Blind (elementary and junior high classes).
(39)	Scholarship Loan Program	54,756,000	Special loans for students of Senior High Schools or more advanced schools of education in the Ryukyus.
(42)-3	Cultural Exchange	1,027,000	Travel expense for Okinawan youths and women to Japan Proper for educational research.
(45)	Sports Teams to Japan	2,000,000	Expenses for sports teams participating in various national sports meetings in Japan Proper.
(46)	Agricultural Research	22,309,000	Improvement of facilities and equipments for the agricultural experiment station.
(47)	Blight and Noxious Insects Control	19,440,000	Purchase of 30 exterminators, large model.
(48)	Vocational Training Facilities	7,254,000	Construction of vocational training facilities and purchase of equipments.

(49)-2	Hansen's Disease Preventive Measures	1,822,000	Salary for temporary employees and purchase of equipments and business supplies.
(50)-a	Treatment of Atomic Bomb Patients	5,041,000	Funds for medical examination, treatment, patients allowance, etc.
(53)	Navigational Aids	28,346,000	Construction of a lighthouse at Agari-Henna point.
	Total Amount	4,831,170,000	

(Note) These aid funds do not include administrative or overhead costs required for the respective projects after their completion.

For Ministry of Foreign Affairs

昭和41会計年度における琉球諸島に対する

援助金に関する覚書（案）

（目　的）

1　琉球諸島の住民の安寧と福祉及び経済発展を増進させるための援助を与えるため、日本国政府総理府（以下「総理府」という。）は、昭和41会計年度（1966年4月1日から1967年3月31日まで）において、合計483,170,000円の金額の範囲内の援助金を、この覚書の一部となつている別添付表に定める区分に従つて、琉球諸島米国民政府（以下「米国民政府」という。）を通じて琉球諸島政府（以下「琉球政府」という。）に供与する。

（定　義）

2　この覚書において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該番号に定めるところによる。

a　事業項目　付表に定める援助金の各項目をいう。

b　事業細目　事業項目の細分で、原則として、琉球政府が契約の単位とするものをいう。

c　実行計画　事業項目及び事業細目ごとに、総事業費及びその負担区分、援助金の請求計画、着手予定年月日及び完了予定年月日、昭

和41会計年度内に完了しない事業項目についてはその理由、及び事業計画送付予定年月日等を記載したものをいう。

d　事業計画　各事業項目について、事業細目別に区分して、場所、目的及び内容、見積価格、着手予定年月日及び完了予定年月日等を記載したものをいう。

e　概算払　事業項目の事業のすべてが完了する前に、当該事業項目の援助金の一部又は全部を支払う支払方法をいう。

（通貨の種類）

3　援助金は、日本国政府が琉球政府の非居住者自由円勘定に貸記する方法により供与する。

（実行計画）

4　琉球政府は、総理府に対して事業計画の事前同意を求める前に、実行計画を作成し、米国民政府を通じて総理府に送付し、総理府は、同実行計画に基づいて事業計画に対する事前同意及び援助金の支払に必要な準備を行なうものとする。

（事業計画）

5　琉球政府は、事業計画を作成し、同事業計画に対し、

米国民政府を通じて総理府の事前同意を求めるものとする。

事業計画が総理府によつて同意された場合には、琉球政府は同事業計画を実施に移すものとする。

（援助金の交付）

6　各事業項目に対する援助金は、その事業が満足に完了した旨の第12項の報告書が総理府に送付された後に、琉球政府に対して交付されるものとする。ただし、概算払を行なうことができる。

（援助金の繰越）

7　援助金は、原則として琉球政府により昭和41会計年度内において使用されるものとする。ただし、昭和41会計年度内において使用されなかつた援助金については、これらの援助金が、昭和42会計年度（1967年4月1日から1968年3月31日まで）中に使用されることができるよう、日本国の関係法令に基づいて、必要措置がとられるものとする。

（交付の条件）

8　援助金は、第5項に基づいて総理府の同意を得た事業計画に従つて使用されなければならない。

第5項に基づいて総理府の同意を得た事業計画に変更

の必要が生じた場合は、琉球政府は、第5項に定めるのと同様の方法によつて総理府の事前同意を求めなければならない。ただし、その変更が軽微な変更である場合はこの限りではない。

（進捗状況の報告）

9　琉球政府は、総理府によつて資金を交付される援助事業の進捗状況について、四半期報告書を米国民政府に提出するものとする。

同報告書は、米国民政府を通じて総理府に送付されるものとする。

（技術専門家の派遣）

10　援助金によつて行なわれる事業に関し、総理府は、琉球政府の要請があり、かつ、米国民政府によつて承認されたときは、特定の事業計画における必要な技術指導を行なうため、関係当局の専門家を派遣することができる。

（援助金の誤用）

11　援助金が、事業の本来の目的に従つて使用されていない場合又はこの覚書の条件に違反して使用された場合は、総理府は、米国民政府を通じて琉球政府に対し、その誤用の是正を勧告し、又は援助金の一部又は全部の返還を求めることができる。

（完了の報告）

12　琉球政府は、事業項目の事業のすべてが完了した場合は、その完了報告書を米国民政府に提出するものとする。同報告書は、総理府に転送されるものとする。

琉球政府の会計検査院による事業の検査報告書は、同様の方法により、じ後可及的すみやかに提出されるものとする。

（会計検査）

13　総理府は、この覚書の条件に基づいて資金を交付した事業の完了及び援助金の適正な支出を確認するため、職員を派遣することができる。

同職員は、総理府、米国民政府及び琉球政府によつて同意された条件に従つて、一部又はすべての事業項目についての完了報告書が総理府に送付された後に、派遣されるものとする。

（意図された目的のための器材の使用）

14　援助金によつて調達される器材及び施設に関しては、これらに対する完全、かつ、明確な所有権が琉球政府に帰属するものとする。ただし、当該器材及び施設は、琉球政府から提出されている計画に掲げられた目的を果すために使用されるものとする。

（覚書の修正）

15　この覚書の規定に修正の必要が生じたときは、総理府、米国民政府及び琉球政府の合意によつてその修正を決定するものとする。

第5項に基づき、総理府が付表に掲げる金額及び事業要目に移動を生ずる結果となる事業計画に同意したときは、同意した事業計画に対応するように付表の修正が行なわれたものとみなす。第8項に基き、事業計画の変更が行なわれた場合も同様とする。

（覚書の効力）

16　この覚書は、琉球政府が、これについて米国民政府の承認を得た日から効力を発する。

附　則

（覚書実施上の細目）

この覚書の実施のために必要と認められる細目については、総理府、米国民政府及び琉球政府の合意により決定されるものとする。

日本国政府総理府　　琉　球　政　府
特別地域連絡局長　　総　務　局　長

昭和　　年　月　日　　年　月　日

高等弁務官に代つて承認する。

行　政　官

年　月　日

For Ministry of Foreign Affairs

「昭和４０会計年度における琉球諸島に対する援助金に関する覚書」の修正（案）

「昭和４０会計年度における琉球諸島に対する援助金に関する覚書」を次のとおり修正する。

附則の（覚書実施上の細目）を附則の第１項とし、附則の第２項として次の規定を設ける。

２　（昭和４０会計年度援助金の繰越分の取扱い）

昭和４０会計年度援助金の繰越分の取扱いについては、１９６６年７月１日以後、昭和４１会計年度における援助金に関する覚書及びその実施上の細目に従うものとする。

上記の取扱いに必要な範囲で、昭和４０会計年度における援助金に関する覚書及びその実施上の細目は、昭和４１会計年度における援助金に関する覚書及びその実施上の細目のとおり修正されるものとする。

付 表

昭和41会計年度日本国政府対琉援助金

（単位：円）

項目番号	項　目	金　額	事業要目		
(2)	種畜生産及び家畜試験研究	22860000	1	琉球家畜試験場の施設，備品の整備	16380000
			2	琉球動物検疫所の施設整備	6480000
(3)	家畜改良増殖	55800000		種畜の購入	
(4)	漁港施設	74196000		漁港名　工種	
				池間港　岸壁	
				渡名喜港　浚渫	
(5)	農林漁業資金	410000000	1	農林漁業中央金庫出資金	360000000
			2	漁船建造資金融通特別会計繰入	50000000
(6)	土地改良	90000000		政府営	31680000
				工事地区	
				美里村東部	
				羽地村西部	
				組合営	58320000
				工事地区	
				国頭村半地	
				仲里村中部	
				平良市西原	

			石垣市石垣		
			豊見城村下原		
			羽地村西部		
			今帰仁村吉事		
(7)-1	森林開発	57.331.000	1. 官有林造林		17.040.000
			2. 民有林造成		15.086.000
			3. 樹苗養成事業		1.992.000
			4. 保安林造成及び改良		14.803.000
			5. 農地防風林造成		7.565.000
			6. 山地荒廃復旧並びに防止		915.000
(7)-2(8)	治山治水	70.200.000	1. 治山事業		16.200.000
			工事地区	工種	
			国頭村奥川	砂防ダム	
			国頭村佐手川	砂防ダム	
			名護町名護	砂防ダム	
			2. 治水事業		54.000.000
			工事地区	工種	
			国頭村比地川	河川改修	
			恩納村安富祖川	砂防ダム	
			国頭村安田川	砂防ダム	
			国頭村安田川	流路工	

			大宜味村饒波川　砂防ダム
(9)	護岸施設	146196000	耕地護岸の建設
			工事地区
			中城村久場
			具志川村具志川
			下地町与那覇長崎浜
			石垣市川平下田原
			石垣市川平浦田原
			玉城村仲村渠下原
			今帰仁村今帰仁シユク原
			東村平良屋之北原
			勝連村平安名
			与那城村平安座
			具志川村仲泊（久米島）
(10)－1	道路整備	732800000	橋梁の建設
			工事地区
			国頭村安波御押橋
			竹富町大富仲間橋
(10)－2	農業施設	594000000	農道の建設
			大宜味村喜如嘉ほか22ケ所
	港湾施設	702000000	港名　種

			渡名喜港　浚渫	
			自浜港　岸壁	
(12)	公営住宅	90360,000	公営住宅第1種100戸　第2種　90戸	
(13)	農山漁村電気導入	36609,000	へき地の農山漁村の無点灯部落に対する電気導入	
(14)	気象観測設備整備	37302,000	気象観測業務に必要な施設の整備	
			気象観測用備品の購入，気象無線施設の整備及びマイクロウエーブ専用線	
			備上料	
(17)	中小企業融通資金	90000,000	大衆金融公庫への出資金	
(18)	ハンセン氏病療養所備品	10800,000	ハンセン氏病療養所備品の購入	
(18)－2	フイラリヤ対策	10800,000	備品及び消耗品の購入	
(18)－3	精神病医薬品	8208,000	精神病医薬品の購入	
(18)－4,5	医学図書館等整備	15480,000	1　医学図書館用図書の購入	7200,000
			2　医療施設用図書の購入	8280,000
(19)	無医地区診療所整備	15660,000	診療所改築等及び備品購入	
(21)	清掃施設整備	92160,000	じん芥高速堆肥化装置	
(22)－A	精神衛生対策	10282,1,000	精神障害者実態調査及び精神障害者措置入院	
(23)	結核病床増設等	33449,000	結核病床増設及び病院外来棟増設	
(24)－A	結核患者等本土収容治療	7702,000	本土収容結核患者等の渡航費	
(26)	児童福祉施設	34655,000	保育所7ヶ所の建設	
(27)	生活保護事業	10265,1,000	生活扶助	
(30)	公務員退職年金	140000,000	制度発足に伴う準備金	

(31)	医療保険	60,000,000	制度発足に伴う準備金
(32)	教職員給与	1,903,735,000	公立義務教育諸学校（小学校，中学校，盲ろう学校，養護学校）教職員の給与
(33)－A	公立小中学校屋内運動場	27,118,000	屋内運動場の建設
(33)－B	公立小中学校普通教室等	384,797,000	普通教室，特別教室，へき地教員住宅，職員室，家庭科教室の建設
(33)－C	特殊学校施設等	43,453,000	肢体不自由児及び精神薄弱児のための養護学校，盲学校，及びろう学校の施設並びに備品車輌の整備
(34)	学校備品	104,841,000	1. 中学校の保健体育，音楽備品の整備 2. 小，中，高等学校の理科教育設備の整備 3. 小，中学校の視聴覚教材の整備
(35)	学校図書館図書	23,662,000	小，中，高等学校及び特殊学校の図書館用図書の整備
(36)	教科書無償給与	182,929,000	小学校全児童，中学校全生徒及び琉球政府立盲学校（小，中）の全児童生徒に対する教科書の無償給与
(39)	育英奨学資金	54,756,000	琉球在住の高等学校の生徒及び大学生に対する特別奨学資金
(42)－3	青年及び婦人本土教育研究活動	1,027,000	琉球の青年及び婦人の日本々土における教育研究活動渡航費
(45)	体育関係全国大会参加	2,000,000	日本々土における各種の全国大会に参加する選手団の経費
(46)	農業試験研究施設整備	22,309,000	農業試験場の施設及び備品の整備
(47)	病害虫防除対策	19,440,000	大型防除機30台の購入
(48)	職業訓練施設	7,254,000	職業訓練施設の建設及び備品の整備
(49)－2	ハンセン氏病対策	1,822,000	非常勤職員給与，備品，消耗品

60－A	原爆被爆者対策	5.041.000	健康診断，医療，医療手当，その他
(65)	航路標識	28.346.000	東平安名崎灯台の建設
	合計	4.831.170.000	

（注） 上記各項目の援助金には，各事業完了後の運営費及び経常費を含まない。

物品の購入に関するトーキングペーパー

日本国の援助金によつて実施される事業に必要な物品の購入については、外国商品に対して琉球及び日本国の商品の価格及び品質が対抗できる場合には、同商品に優先権を与える。

第14項に関するトーキングペーパー

第14項の（意図された目的のための器材の使用）には、援助金によつて取得された器材、施設を正当な理由なしで、他に譲渡し、貸し付け、交換し又は担保に供するような行為をしてはならないことを含むものと解する。

育英奨学資金（項目番号（３９））に関する

トーキングペーパー

奨学資金は、琉球における大学及び高等学校に在学する者で特に優秀でありながら、経済的に修学困難な者に対する学資貸与の資金として、次の区分に従つて琉球政府を通じ、琉球育英会で使用すること。

1. 大学（全学年）　３１,１７６,０００円
2. 高等学校（全学年）　２３,５８０,０００円

なお、貸与月額は、高校生徒については、原則として３,０００円、大学学生については、自宅からの通学者に対しては５,０００円、自宅以外からの通学者に対しては８,０００円とし、これらの学資貸与金の返還は、高校生徒にあつては貸与期間１月について１,５００円、大学学生にあつては貸与期間１月について３,０００円を年賦の方法によつて学校卒業後２０年以内に返還すれば、残額は免除しうるものとして実施されることを期待する。

EMBASSY
OF THE
UNITED STATES OF AMERICA

Tokyo, Japan

June 30, 1966

Mr. Makoto Watanabe
North American Section
Ministry of Foreign Affairs
Tokyo, Japan

Dear Mr. Watanabe:

I transmit for your information and appropriate use one copy of a list of disrepancies between the English and Japanese texts of your Government's draft of the "Memorandum Concerning Items and Costs of Aid Projects of the Government of Japan to the Ryukyu Islands for the Japanese Fiscal Year of 1966" made available to the Embassy by the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands.

Sincerely yours,

Rodney E. Armstrong
Second Secretary of Embassy

Enclosure:
"List of Disrepancies"

Tokyo, Japan

June 30, 1966

Mr. Makoto Watanabe
North American Section
Ministry of Foreign Affairs
Tokyo, Japan

Dear Mr. Watanabe:

I transmit for your information and appropriate use one copy of a list of disrepancies between the English and Japanese texts of your Government's draft of the "Memorandum Concerning Items and Costs of Aid Projects of the Government of Japan to the Ryukyu Islands for the Japanese Fiscal Year of 1966" made available to the Embassy by the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands.

Sincerely yours,

Rodney E. Armstrong
Second Secretary of Embassy

Enclosure:
"List of Disrepancies"

English	Japanese	Remarks
5. Page 5, Item (29)		
"Welfare Loan Fund"	"Boshi katei ni taisuru shikin kashitsuke"	In the English text the words "for Mother-child Families" are missing.
6. Page 7, Explanatory notes		
"is made in accordance with..."	"...to onaji de aru."	The Japanese version says "is the same as..." If the English version should be adopted the words in Japanese should read "...ni yoru mono de aru."
7. Page 7		
Remarks:	On this page and in subsequent pages, aid project items are written "Program No. ...." They should be changed to read "Project No. ...."	
8. Page 8, Item Number (33)		
"Gymnasia"	"okunai undojo"	At one place, the English reads "Gymnasium for.... Schools" while in another, the plural for gymnasium "gymnasia" is used. Suggest that correct plural form be used in both cases.
9. Page 9		
"Superintendent's rooms"	"shokuin shitsu"	The Japanese reads "rooms for personnel." The word "shokuin" means "personnel", "staff", employee or employees" etc. If the word "superintendent" may be considered as meaning "personnel", etc. there is no argument here.

English	Japanese	Remarks
1. Page 2, Item (10)-1		
"Roads and Bridges"	"Doro-seibi"	Doro-seibi means "road improvements." The words "and Bridges" are missing in the Japanese. The word "doro," meaning "roads," may include "bridges" which are considered a part of a road.
2. Page 3, Item (42)-3		
"Cultural Exchange"	"Seinen oyobi fujin hondo kyoiku kenkyu katsudo"	The Japanese version is the same as JFY 1965 item which read "Travel Expenses for Youths and Women to Japan Proper for Educational Research." Possibly the words "cultural exchange" are intended to mean the same as that in JFY 65 item.
3. Page 4, Item (46)		
"Agricultural Research"	"Nogyo shiken kenkyu shisetsu seibi"	The Japanese version means "Improvement of facilities for agricultural experimentation and research."
4. Page 5, Item (60)		
"Telephone Circuit Survey"	"U H F kaisen setchi chosa"	The letters "U H F" are not in the English text. The Japanese should read "Denwa kaisen setchi chosa."

Incl. 1

English	Japanese	Remarks
Page 2, Item (10)-1 "Roads and Bridges"	"Doro-seibi"	Doro-seibi means "road improvements." The words "and Bridges" are missing in the Japanese. The word "doro," meaning "roads," may include "bridges" which are considered a part of a road.
2. Page 3, Item (42)-3 "Cultural Exchange"	"Seinen oyobi fujin hondo kyoiku kenkyu katsudo"	The Japanese version is the same as JFY 1965 item which read "Travel Expenses for Youths and Women to Japan Proper for Educational Research." Possibly the words "cultural exchange" are intended to mean the same as that in JFY 65 item.
3. Page 4, Item (46) "Agricultural Research"	"Nogyo shiken kenkyu shisetsu seibi"	The Japanese version means "Improvement of facilities for agricultural experimentation and research."
4. Page 5, Item (60) "Telephone Circuit Survey"	"U H F kaisen setchi chosa"	The letters "U H F" are not in the English text. The Japanese should read "Denwa kaisen setchi chosa."

Incl.

English	Japanese	Remarks
5. Page 5, Item (29) "Welfare Loan Fund"	"Boshi katei ni taisuru shikin kashitsuke"	In the English text the words "for Mother-child Families" are missing.
6. Page 7, Explanatory notes "is made in accordance with..."	"...to onaji de aru."	The Japanese version says "is the same as..." If the English version should be adopted the words in Japanese should read "...ni yoru mono de aru."
7. Page 7 Remarks: On this page and in subsequent pages, aid project items are written "Program No. ...." They should be changed to read "Project No. ...."		
8. Page 8, Item Number (33) "Gymnasia"	"okunai undojo"	At one place, the English reads "Gymnasium for.... Schools" while in another, the plural for gymnasium "gymnasia" is used. Suggest that correct plural form be used in both cases.
9. Page 9 "Superintendent's rooms"	"shokuin shitsu"	The Japanese reads "rooms for personnel." The word "shokuin" means "personnel", "staff", employee or employees" etc. If the word "superintendent" may be considered as meaning "personnel", etc. there is no argument here.

English	Japanese	Remarks
1. Page 2, Item (10)-1		
"Roads and Bridges"	"Doro-seibi"	Doro-seibi means "road improvements." The words "and Bridges" are missing in the Japanese. The word "doro," meaning "roads," may include "bridges which are considered a part of a road.
(回答) 当方のとおり	道路整備は「道路整備」(だけ)を意味する。日本語には「及び橋梁」が抜けている。「Roads」を意味する道路という語は道路の一部であるところの橋も含むのかも知れない。	
2. Page 3, Item (42)-3		
"Cultural Exchange"	"Seinen oyobi fujin hondo kyoiku kenkyu katsudo"	The Japanese version is the same as JFY 1965 item which read "Travel Expenses for Youths and Women to Japan Proper for Educational Research Possibly the words "cultural exchange" are intended to mean the same as that in JFY 65 item.
(回答) 「Youths and Women to Japan Proper for Educational Research」とする。	日本語は、昭和40年度の「Travel Expenses for Youths and Women to Japan Proper for Educational Research」と同様である。多分「Cultural Exchange」という語は昭和40年度の語と同じ意味をもたせようとするものであろう。	
3. Page 4, Item (46)		
"Agricultural Research"	"Nogyo shiken kenkyu shisetsu seibi"	The Japanese version means "Improvement of facilities for agricultural experimentation and research."
(回答) 意見のとおり修正する。	日本語は「Improvement of facilities for agricultural experimentation and research」を意味する。	
4. Page 5, Item (60)		
"Telephone Circuit Survey"	"U H F kaisen setchi chosa"	The letters "U H F" are not in the English text. The Japanese should read "Denwa kaisen setchi chosa."
(回答) ぼう頭に UHF を挿入する。SETCHI に相当する用語は入れても入れなくてもよい。	UHFという言葉が英文にない。日本語は電話回線設置調査とすべきであり。	

Incl 1

English	Japanese	Remarks
5. Page 5, Item (29)		
"Welfare Loan Fund"	"Boshi katei ni taisuru shikin kashitsuke"	In the English text the words "for Mother-child Families" are missing.
米側の言う FOR 以下を入れてもよい。	英文では、「for the Mother-child Families」が抜けている。	
6. Page 7, Explanatory notes		
"is made in accordance with..."	"...to onaji de aru."	The Japanese version says "is the same as..." If the English version should be adopted the words in Japanese should read "...ni yoru mono de aru."
IS THE SAME AS と表現を替えて可。以下修正を要しない。		
7. Page 7		
Remarks:	On this page and in subsequent pages, aid project items are written "Program No. ...." They should be changed to read "Project (ITEM) No. ...."	(当方案で使用した Program No. の用語も引用上の便宜のために使用したものであり、わが方案では正式に使用することになった定義に当って改めるには Project ITEM No. とする。)
8. Page 8, Item Number (33)		
"Gymnasia"	"okunai undojo"	At one place, the English reads "Gymnasium for.... Schools" while in another, the plural for gymnasium "gymnasia" is used. Suggest that correct plural form be used in both cases.
Yes. 複数にする		
9. Page 9		
"Superintendent's rooms"	"shokuin shitsu"	The Japanese reads "rooms for personnel The word "shokuin" means "personnel", "staff", employee or employees" etc. If the word "superintendent" may be considered as meanin "personnel", etc. there is no argument here.
先方の言う意味どおりであるので理解を容易にするために S— を PERSONNEL に替えて可。		

1. 日本では「道路」は橋も含む概念で用いている。従って「道路及び橋梁」とする必要はない。

2. 日本文には「旅費」という用語を使っていないので、"Travel Expenses" をつけないで、米側案のとおり "Youths and Women to Japan Proper for Educational Research" としてもよい。

3. 米側案のとおり "Improvement of Facilities for Agricultural Experimentation and Research" としてもよい。

4. 英文の冒頭に以下を挿入してもよい。

SANWA BANK

5. 米側案のとおり "For the Mother-Child Families" と挿入してもよい。

6. 以下 説明書だから修正する必要ない。日本語で理解してもらいたい。

(注) 修正して異議のない旨送付してよいか照会願いたい。

SANWA BANK

EMBASSY
OF THE
UNITED STATES OF AMERICA
Tokyo, Japan

北米課長

July 20, 1966

渡辺事務官 了

Sumio Edamura, Esq.
North American Section
North American Affairs Bureau
Ministry of Foreign Affairs
Tokyo, Japan

Dear Mr. Edamura:

The United States Civil Administration for the Ryukyu Islands has completed its review of the Japanese Government's draft of the "Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1966 with Annex and Talking Papers".

The United States Civil Administration wishes to make the following specific comments on the proposed JFY 1966 aid memorandum:

a. Basic Memorandum. With a few minor changes to the wording in the English text (e.g. project item vs. project, etc.), the memorandum is acceptable. The proposed changes are indicated on the enclosed copy of the draft memorandum in which what are considered to be unnecessary words have been stricken out.

b. Annex. The following changes should be made:

(1) Under Item No. 6 (Agricultural Land Development), Association Facilities, Shimobara (Tomigusuku-son) should read Shitabaru, and Kichiji (Nakijin-son) should read Yoshiji (English text only).

(2) Under Item No. 8 (Flood Control), Noha River (Ogimi-son) should read Nuha River (English text only).

(3) Under item Equipment for Leprosarium, the item number should read 18-1 instead of 18 (Japanese text only).

c. Talking Papers and Amendment (Incl 5). There are no objections to the proposed papers. The amendment, which is a new proposal, is acceptable.

Sincerely yours,

John M. Farrior

John M. Farrior
First Secretary of Embassy

七月二〇日午後アームストロング書記官が持参した。なお、別添本文は総理府特連局に転送済
K.M.

EMBASSY
OF THE
UNITED STATES OF AMERICA
Tokyo, Japan

7/20 7/24 [illegible]
[illegible]

July 20, 1966

Sumio Edamura, Esq.
North American Section
North American Affairs Bureau
Ministry of Foreign Affairs
Tokyo, Japan

Dear Mr. Edamura:

The United States Civil Administration for the Ryukyu Islands has completed its review of the Japanese Government's draft of the "Memorandum Concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1966 with Annex and Talking Papers".

The United States Civil Administration wishes to make the following specific comments on the proposed JFY 1966 aid memorandum:

a. Basic Memorandum. With a few minor changes to the wording in the English text (e.g. project item vs. project, etc.), the memorandum is acceptable. The proposed changes are indicated on the enclosed copy of the draft memorandum in which what are considered to be unnecessary words have been stricken out.

b. Annex. The following changes should be made:

(1) Under Item No. 6 (Agricultural Land Development), Association Facilities, Shimobara (Tomigusuku-son) should read Shitabaru, and Kichiji (Nakijin-son) should read Yoshiji (English text only).

(2) Under Item No. 8 (Flood Control), Noha River (Ogimi-son) should read Nuha River (English text only).

(3) Under item Equipment for Leprosarium, the item number should read 18-1 instead of 18 (Japanese text only).

c. Talking Papers and Amendment (Incl 5). There are no objections to the proposed papers. The amendment, which is a new proposal, is acceptable.

Sincerely yours,

John M. Farrior

John M. Farrior
First Secretary of Embassy

MEMORANDUM CONCERNING AID FUNDS
FOR THE RYUKYU ISLANDS FOR JFY 1966

1. (Purpose)

For the purpose of providing assistance to promote the welfare and well-being of the inhabitants of the Ryukyu Islands and their economic development, the Prime Minister's Office of the Government of Japan (hereinafter referred to as the Prime Minister's Office) will provide the Government of the Ryukyu Islands (hereinafter referred to as the Ryukyu Government), through the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands (hereinafter referred to as the United States Civil Administration) with grant-in-aid funds to the extent of an amount totalling ¥4,831,170,000 for the fiscal year of 1966 (1 April 1966 through 31 March 1967) according to the break-down specified in the Annex attached and made a part hereof.

2. (Definition of Terms)

In this memorandum, the terms listed below will be interpreted as specified in the following:

a. Project ~~Item~~ - ~~[illegible]~~ Item of aid funds as described in the Annex.

b. Subproject ~~Project Item~~ - Detailed sub-item of each project ~~item~~ which is to be in principle a unit for each contract made by the Ryukyu Government.

c.

c. Execution Plan - Plan for each project and subproject specified with such details as total cost, sources of funds, plan for request of funds, scheduled date of initiation & completion, reason for extension of project period over JFY 1966 (if any), expected time for submission of project plan, etc.

d. Project Plan - Plan for subprojects's in each project, specified with such details as location, purpose, general discription, estimated cost, expected time of initiation & completion, etc.

2. Gaisan-barai (Roughly estimated advance payment)

- Payment in part or in full of the aid funds for each project before completion of the project concerned.

3. (Type of Currencies)

Aid funds will be provided through being credited to the non-resident free yen account of the Ryukyu Government by the Government of Japan.

4. (Execution Plan)

The Ryukyu Government will prepare the execution plan

before

before seeking the prior concurrence of the Prime Minister's Office in the project plan, and will submit it to the Prime Minister's Office through the United States Civil Administration. The Prime Minister's Office, on the basis of the execution plan submitted, will make necessary preparation for the prior concurrence in the project plan and for the payment of aid funds.

5. (Project Plan)

The Ryukyu Government will work out the project plan, and will seek the prior concurrence of the Prime Minister's Office therein through the United States Civil Administration.

When the project plan has been concurred in by the Prime Minister's Office, the Ryukyu Government will proceed to execute it.

6. (Transfer of Aid Funds)

The aid funds for each project will be turned over to the Ryukyu Government after a report is sent to the Prime Minister's Office on the satisfactory completion of the project as referred to in paragraph 12 below. However, Gaisan-barai may be made in advance.

7. (Carry-over of Aid Funds)

The aid funds will, in principle, be expended by the Ryukyu Government during the Japanese fiscal year of 1966.

However,

However, with regard to the aid funds which have not been expended during the Japanese fiscal year of 1966, necessary action will be initiated under related laws and regulations in Japan, so that these funds may be expended during the fiscal year of 1967 (between 1 April 1967 through 31 March 1968).

8. (Conditions of Granting Aid Funds)

The aid funds will be used in accordance with the project plan concurred in by the Prime Minister's Office, as provided for in paragraph 5 above.

Should a change become necessary in the project plan concurred in by the Prime Minister's Office under paragraph 5, the Ryukyu Government shall seek advance concurrence therein of the Prime Minister's Office in the same manner as stipulated in paragraph 5. However, in case that the change is of minor nature, no advance concurrence will be necessary.

9. (Report on Progress)

The Ryukyu Government will submit to the United States Civil Administration a quarterly report on the progress of the aid program funded by the Prime Minister's Office. Said report will be transmitted to the Prime Minister's Office through the United States Civil Administration.

10. (Dispatch of Technical Experts)

As to the projects undertaken with the aid funds, the Prime Minister's Office may, if requested by the Ryukyu Government and approved by the United States Civil Administration, dispatch experts of the pertinent authorities for necessary technical instruction in a specific project or subproject.

11. (Misuse of Aid Funds)

In the event that the aid funds are not used in accordance with the purposes intended or in violation of the terms and conditions of the present Memorandum, the Prime Minister's Office may advise the Ryukyu Government through the United States Civil Administration to rectify any misuse of the funds or demand the repayment by the Ryukyu Government of a part or the whole of the aid funds.

12. (Report on Completion)

When each project is fully completed, the Ryukyu Government will submit to the United States Civil Administration a report on completion of the project. Said report will be transmitted to the Prime Minister's Office. The Audit Report on the project, by the Board of Audit of the Ryukyu Government, will be submitted in the same manner as early thereafter as practicable.

13. (Audit)

The Prime Minister's Office may dispatch officials to verify completion of projects financed under the terms of this Memorandum and proper expenditure of aid funds.

The officials will be dispatched under such conditions

as may be agreed upon by the Prime Minister's Office, the United States Civil Administration and the Ryukyu Government, after submission to the Prime Minister's Office of report on completion of some ~~a part~~ or all of the projects ~~thereof~~.

14. (Utilization of Equipment for Purposes Intended)

With respect to the equipment and facilities procured with the aid funds, full and clear title to the same will rest with the Ryukyu Government, but such equipment and facilities will be utilized to fulfill the purposes foreseen in the project ~~proposal~~ which has been submitted by the Ryukyu Government.

15. (Amendment to Memorandum)

Should an amendment to the provisions of the present Memorandum become necessary, it will be decided on by agreement among the Prime Minister's Office, the United States Civil Administration and the Ryukyu Government.

In case the Prime Minister's Office concurs in any of the project plans ~~attached to the Annex~~ submitted in accordance with paragraph 5, above, in such a manner as to cause alteration in the item, amount or ~~contents of such project plan, such project plan~~ description in the Annex, the Annex will be regarded as modified by such concurrence accordingly.

The same principle will apply in case a change is made to any of the project plans in accordance with paragraph 8, above.

16. (Validity of Memorandum)

This Memorandum will enter into force from the day on which the Ryukyu Government has obtained the approval of the United States Civil Administration thereon.

SUPPLEMENT

(Details of Implementation of Memorandum)

Details which may be deemed necessary for the implementation of this Memorandum will be determined by agreement of the Prime Minister's Office, the United States Civil Administration, and the Ryukyu Government.

Director
Special Areas Liaison Bureau
Prime Minister's Office
Government of Japan

Date:

Director
General Affairs Department
Government of the
Ryukyu Islands

Date:

Approved for the High Commissioner:

~~Executive Officer~~
Chief of Administration

Date:

昭和41会計年度における日本国政府の琉球諸島に対する援助計画の項目及び金額に関する覚書

昭和41会計年度（昭和41年4月から昭和42年3月まで）における琉球諸島に対する援助のため、日本国政府援助計画としてこの覚書の付表に掲げるとおり、日本国政府支出予算が成立したので、日本国政府はこの目的に充てられた資金を日本国の関係法令に従つて支出する意向であり、琉球政府はこの援助計画に同意する意思を有することについて、日本国政府総理府と琉球諸島米国民政府を通じての琉球政府との間において了解が成立した。

日本国政府総理府　　琉球政府
特別地域連絡局長　　総務局長

昭和　年　月　日　　年　月　日

高等弁務官に代つて承認する。

行政官

年　月　日

付表

昭和41会計年度における琉球諸島に対する日本国政府の援助計画

1. 援助金による援助計画

項目番号	項目	金額(円)
(2)	種畜生産及び家畜試験研究	22860000
(3)	家畜改良増殖	55800000
(4)	漁港施設	74196000
(5)	農林漁業資金	410000000
(6)	土地改良	90000000
(7)—1	森林開発	57331000
(7)—2,(8)	治山治水	70200000
(9)	護岸施設	146196000
(10)—1	道路整備	73800000
(10)—2	農業施設	59400000
(11)	港湾施設	70200000
(12)	公営住宅	90360000
(13)	農山漁村電気導入	36609000
(14)	気象観測設備整備	37302000
(17)	中小企業融通資金	90000000

(18)—1	ハンセン氏病療養所備品	10,800,000
(18)—2	フイラリヤ対策	10,800,000
(18)—3	精神病医薬品	8,208,000
(18)—4,5	医学図書館等整備	15,480,000
(19)	無医地区診療所整備	15,660,000
(21)	清掃施設整備	92,160,000
(22)—A	精神衛生対策	102,821,000
(23)	結核病床増設等	33,449,000
(24)—A	結核患者等本土収容治療	7,702,000
(26)	児童福祉施設	346,555,000
(27)	生活保護事業	102,651,000
(30)	公務員退職年金	140,000,000
(31)	医療保険	60,000,000
(32)	教職員給与	1,903,735,000
(33)—A	公立小中学校屋内運動場	27,118,000
(33)—B	公立小中学校普通教室等	384,797,000
(33)—C	特殊学校施設等	43,453,000
(34)	学校備品	104,841,000
(35)	学校図書館図書	23,662,000
(36)	教科書無償給与	182,929,000

(39)	育英奨学資金	54,756,000
(42)—3	青年及び婦人本土教育研究活動	1,027,000
(45)	体育関係全国大会参加	2,000,000
(46)	農業試験研究施設整備	22,309,000
(47)	病害 虫防除対策	19,440,000
(48)	職業訓練施設	7,254,000
(49)—2	ハンセン氏病対策	1,822,000
(50)—A	原爆被爆者対策	5,041,000
(53)	航路標識	28,346,000
	小　計	4,831,170,000

2. その他の援助計画

項目番号	項　目	金　額(円)
(1)	模範農場	14,152,000
(15)	高層気象台備品及び消耗品	44,562,000
(16)	先島TV置局	217,280,000
(22)—B	精神衛生対策	1,314,000
(24)—B	結核患者等本土収容治療	207,936,000
(25)	医師歯科医師派遣	89,949,000
(41)	国費奨学生計画	83,229,000
(42)—1	教員等本土研修	12,769,000

(42)－2	琉球大学教員本土研修	4,176,000
(43)－1	教育指導員派遣	12,996,000
(43)－2	現職教員再教育講習	9,072,000
(43)－3	琉球大学への教授派遣	278,200
(44)－1，2，5	技術援助	69,730,000
(44)－3	文化財復旧	634,000
(44)－4	農業教育近代化研修	2,364,000
(49)－1	ハンセン氏病対策	299,200
(50)－B	原爆被爆者対策	553,000
(51)	琉球大学医学部設置調査	8,394,000
(52)	文化財展開催	5,301,000
(60)	ＵＨＦ回線設置調査	10,020,000
	小　計	800,205,000

3. 日本国政府が南方同胞援護会を通じて行なう援助計画

項目番号	項　目	金　額（円）
(20)	ハンセン氏病治療医薬品	25,200,000
(28)	民間福祉施設に対する資金	10,800,000
(29)	母子家庭に対する資金貸付	7,200,000
(37)	公民館図書	15,192,000
(38)	学用品無償給与	24,671,000
(40)	遺児育英資金	360,000
(54)	ハンセン氏病患者更生資金	1,000,000
(55)	整肢療護園施設	21,240,000
(56)	精和病院増築	20,084,000
(57)	身体障害者職業補導所施設整備	6,835,000
(58)	福祉病院施設整備	9,694,000
(59)	遺族の家建設	50,000,000
	小　計	169,596,000

4. 総　額　5,800,971,000円

付表の項目番号、項目及び金額の区分に関する

説明書

ここで特に説明のないものは、昭和40年11月2日の協議委員会で決定された項目番号、項目及び金額の区分（参照：

Proposed Economic Assistance Program from the Government of Japan to the Ryukyu Islands for Japan Fiscal Year 1966 (FY 1967) ..... 29 October 1965

）と同じである。

この付表において、同協議委員会で決定された項目番号、項目及び金額の区分と異にして配列したものは次のとおりである。

1. 項目番号(22)について

琉球政府で管理する資金（援助金）は、22－1措置費¥101.606.000（$282.238）と22－2調査費のうちの調査費¥1.215.000（$3.375）の合計¥102.821.000（$285.613）である。

総理府で管理する資金（その他の援助）は、22－2調査費のうちの旅費¥1.314.000（$3.650）である。

援助金の項目番号は、(22)－A とし、その他の援助の項目番号は(22)－B としてある。なお、項目の名称は(22)－A と(22)－B の双方を精神衛生対策としてある。

2. 項目番号(24)について

援助金は、24－1－a結核患者治療の旅費¥7.609.000（$21.136）と24－1－c ハンセン氏病患者治療費のうち旅費¥93.000（$.258）の合計¥7.702.000（$21.394）である。

その他の援助は、24－1－b収容治療費¥207.588.000（$576.633）と24－1－c ハンセン氏病患者治療費のうちの患者給付金¥348.000（$967）の合計¥207.936.000（$577.600）である。

援助金の項目番号は(24)－A とし、その他の援助の項目番号は、(24)－B としてある。なお、項目の名称は(24)－A と(24)－B の双方を結核患者等本土収容治療としてある。

3. 項目番号(33)について

日本国政府支出予算の国会における承認の基礎となつた区分に従い、(33)学校施設を次のとおり3つの区分とした。

(33)－A 公立小中学校屋内運動場は、33－1－a の小学校施設のうちの屋内運動場¥15.408.000（$42.800）と33－1－b の中学校施設のうちの屋内運動場¥18.490.000（$51.363）の合計の80％の¥27.118.000（$75.330）である。

(33)－B 公立小中学校普通教室等は、33－1－a、b のう

ちの屋内運動場を控除した金額の80%の¥384797.000（$1.068881≒1.068879）である。

（内訳）

小学校分

普通教室

¥146880.000（$408.000）×80%≒¥117.504.000（$326.400）

特別教室

¥106.920.000（$297.000）×80%≒¥85.536.000（$237.600）

職員室

¥30.600.000（$85.000）×80%≒¥24473.000（$68.000）

へき地教員住宅

¥6.746.460（$18.739）×80%≒¥5.397.168（$14.991）

中学校分

普通教室

¥73.440.000（$204.000）×80%≒¥58.752.000（$163.200）

特別教室

¥71.280.000（$198.000）×80%≒¥57.024.000（$158.400）

家庭科教室

¥15.000.000（$41.665）×80%≒¥12.000.000（$33.332）

職員室

¥23.400.000（$65.000）×80%≒¥18.714.000（$51.984）

へき地教員住宅

¥6.746.460（$18.739）×80%≒¥5.397.168（$14.991）

合計

¥384797.000（$1.068881≒1.068879）

(60)－α特殊学校施設等は、33－23.445の合計¥43.453.000（$120.703）である。

4. 項目番号(50)について

援助金は、原爆医療専門家旅費¥553.000（$1.536）を除いた金額¥5.041.000（$14.003）である。

その他の援助は原爆医療専門家旅費¥553.000（$1.536）である。

援助金の項目番号は(50)－Aとし、その他の援助の項目番号は(50)－Bとしてある。なお、項目の名称は、(50)－Aと(50)－Bの双方を原爆被爆者対策としてある。

5. 項目番号(44)について

その他の援助のうち、44技術援助は、日本国政府支出予算の国会における承認の基礎となつた区分に従い、付表のとおり3つの区分とした。

EMBASSY
OF THE
UNITED STATES OF AMERICA
Tokyo, Japan

August 31, 1966

Mr. Sumio Edamura, Chief
North American Section
Ministry of Foreign Affairs
Tokyo

Dear Mr. Edamura:

I refer to your letter dated May 27, 1966, and addressed to Mr. Bruns, formerly of this Embassy, which enclosed for review by the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands and the Government of the Ryukyu Islands a copy of the "Memorandum concerning Items and Costs of Aid Projects of the Government of Japan to the Ryukyu Islands for the Japanese Fiscal Year 1966." I wish to inform you that your draft is acceptable to the United States Civil Administration and the Government of the Ryukyu Islands.

You are, of course, aware of a letter written June 30, 1966, by Mr. Armstrong of this Embassy to Mr. Watanabe of your section, which enclosed for the Ministry's information and appropriate use a copy of a listing of discrepancies between the English and Japanese versions of your Government's draft of the "Aid Costs" memorandum. I have been informed by the Civil Administration that they do not wish to insist that these discrepancies be eliminated, but wish only to have them on record in your Government's files.

Sincerely,

John E. MacDonald
First Secretary of Embassy

TALKING PAPER
CONCERNING PURCHASE OF ARTICLES

In purchasing articles required for the projects undertaken with the Japanese aid funds, where the price and quality of Ryukyuan and Japanese goods are competitive with those of other countries, priority will be given to the Japanese and Ryukyuan goods.

TALKING PAPER
CONCERNING PARAGRAPH 14

Paragraph 14 (utilization of equipment for purposes intended) is understood to mean that with respect to the equipment and facilities procured with the aid funds, the Ryukyu Government will refrain from any acts, such as transfer or lease to others, exchange or mortgage unless there exist good reasons therefor.

TALKING PAPER

CONCERNING AID FUND FOR SCHOLARSHIP

(PROGRAM NO. 39)

It is desirable that scholarship funds be made available for loans to students in universities and senior high schools in the Ryukyus whose scholastic records are excellent but who have, for economic reasons, experienced difficulty in pursuing their studies, and that the scholarship funds be administered by the Ryukyu Scholarship Society through the Government of the Ryukyu Islands and earmarked in the following categories:

1. For university students (all grades).....
.....¥31,176,000
2. For senior high school students (all grades)
.....¥23,580,000

It is further desirable that, in principle, the amount of monthly loan be 3,000 yen for senior high school students, 5,000 yen for university students commuting to school from home, and 8,000 yen for university students commuting to school from places other than their homes; and the repayment of these scholarship loans be in the amount of 1,500 yen per month

month for students in senior high school and 3,000 yen per month for university students for a period equivalent to the time during which the loan was obtained, and if the loan is repaid under an annual installment plan within 20 years after the completion of their studies the remainder of the loan shall be waived.

Explanatory Notes on Memorandum concerning
Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1966

The Memorandum for JFY 1966 is made on the basis of the Memorandum for JFY 1965 with partial amendment.

The amendments and their reason are as follows:

1. As paragraph 2, a provision concerning "definition of terms" is inserted.

(Reason) This provision is inserted to clarify the definition of terms used in this Memorandum and also to facilitate the implementation of the Memorandum.

The "Project Detail" defined in paragraph 2. b. is what has been referred to as "Project". It can be understood in the same manner for the implementation of this Memorandum.

2. As paragraph 4, a provision concerning "Execution Plan" is inserted.

(Reason) This provision is inserted to avoid delay which tended to occur as regards the approval of project plan, and disbursement of aid funds by the Prime Minister's Office. This Execution Plan is to be utilized to help expedite these procedures.

An agreement was reached on the "Execution Plan" at the 9th Meeting of the Technical Committee.

3. "Procedure" which used to the stipulated under paragraph 3, is divided in this Memorandum into Paragraphs 5., 6. and 7. with respective titles.

(Reason) As there are some other provisions relevant to procedures, it is not proper to place the title of "Procedure" for this paragraph only.

Besides, clearer understanding of the procedures can be expected if the paragraph is divided into three parts with independent titles.

4. Paragraph 3. a. which dealt with the notification of contract execution, and paragraph 3. d. which dealt with the receipt are deleted.

(Reason) This change is made to omit documents not required for the accounting in the Prime Minister's Office, in order to simplify the administrative procedures and to expedite the execution of the projects.

The abolition of the receipt has been agreed on at the 9th Meeting of the Technical Committee.

5. As regards paragraph 6, the reference to partial payment which used to be included in the provision on the transfer of aid funds is deleted.

(Reason) The partial payment is no longer considered necessary as Gaisanbarai (roughly estimated advance payment) will be utilized.

An agreement was reached at the 9th Meeting of the Technical Committee in this regard.

6. Provisions concerning the conditions of provision in paragraph 8 are amended.

(Reason) Amendments are made to (1) clarify the meaning of the provisions concerned and (2) enable the Ryukyu Government to divert funds among projects in case certain amount be found saved or unneeded in the fund appropriated to any of the projects.

7. In paragraph 9, the wording, "similar to that for the United States aid program" is deleted.

(Reason) The form which was agreed to be used does not appear to be similar to that for the U.S. aid program.

8. In paragraph 12, the submission of a report on completion is limited to the time "when each project item is fully completed", and a provision for requests for partial payment is eliminated.

(Reason) These changes are made to simplify the procedures and as a result of the elimination of partial payment itself.

A basic agreement was reached in this regard at the 9th Meeting of the Technical Committee.

9.

9. In paragraph 15, it is stipulated that any of the project plans described in the Annex will be regarded as amended when such project plan is concurred in or changed so as to contain different contents from that in the Annex.

(Reason) This is to simplify the administrative procedures.

AMENDMENT TO THE "MEMORANDUM CONCERNING AID FUNDS FOR THE RYUKYU ISLANDS FOR JFY 1965" ~~(DRAFT)~~

The Memorandum concerning Aid Funds for the Ryukyu Islands for JFY 1965 will be amended as follows;

The provisions on the Details for Implementation of Memorandum in the SUPPLEMENT will become paragraph 1 of the SUPPLEMENT, and the following provisions will be added to it as paragraph 2;

2. (Treatment of that part of Aid Funds for JFY 1965 which is carried over)

The amount carried over from the aid funds for JFY 1965 will be treated as from July 1, 1966 in accordance with the provisions of the Memorandum for Aid Funds for JFY 1966 and details for implementation thereof.

As far as the said treatment requires, the Memorandum for Aid Funds for JFY 1965 and details for implementation thereof will be considered as amended in accordance with the Memorandum for Aid Funds for JFY 1966 and details for implementation thereof.